2017 京都橘大学
「地域連携型教育プログラム」実績集
（「学まち連携大学」促進事業実績集）

（2017年4月～2018年3月）

京都橘大学産学公地域連携推進機構
地域連携センター
Center for Regional Collaboration

目次：京都橘大学「地域連携型教育プログラム」実績集

Ⅰ．はじめに		2
Ⅱ．2017年度　京都橘大学「地域連携型教育プログラム」この1年の歩み		3
Ⅲ．「学まち連携大学」促進事業の実績		
実践例	地域連携センター学生委員会「たちラボたち」	8
	『防災リーダー養成プログラム』	9
	地域資源の活用をつうじた山科地域の活性化へ向けた活動	10
	音楽を通した交流―アウトリーチ活動	11
	げんKids★応援隊　活動記録	12
	学生企画によるオリジナルディフューザー『Aromandarin』の研究開発	13
	地域連携PBL公務編	14
	「こだわり市場」（小冊子およびWeb）の制作	15
	「看護お助け隊in醍醐中山団地」の活動	16
	学生企画によるオリジナルアイスクリーム『RICHA』の研究開発	17
	やましな駅前陶灯路・イベントPR	18
	みんないきいき幸齢教室	19
	MOMOテラスと連携した地域活性化イベントPBL	20
	たちばな健康相談	21
	たちラボ山科開設記念「狂言とワークショップの夕べ」の活動	22
	こころなごみカフェ	23
一覧表	その他の京都市地域を対象とした教育活動（「学まち連携大学」促進事業）一覧	24
Ⅳ．その他の地域連携型教育プログラムの実績		
実践例	高齢者の生活の場で学ぶ看護学実習	28
	「マーケティング調査演習」の取り組み	29
	第3回「統合保育の現状と地域連携」	30
	駅ナカアートプロジェクト2017	31
	高齢者の健康促進活動	32
	「京都橘大学・熊野再発見プロジェクト」の活動について	33
一覧表	その他の地域連携型教育プログラムの実績一覧	34
Ⅴ．産学連携（共同研究等）	妊婦サロンの設置可能性および運営手法の検討 『産後早期の子育てにむけた家族教室』の活動を通して	35
	「地域連携推進機構」を「産学公地域連携推進機構」に改編	36
Ⅵ．公的研究費・助成金等一覧		37
Ⅶ．協定等	自治体等との連携協力に関する協定の締結	38
Ⅷ．教員の活動実績等	2017年度 学部・学科別活動実績 ①地域を対象とした研究活動　②社会貢献活動	42
Ⅸ．広報誌「つながる」	2017年度　CONTENTS	50

京都橘大学
「地域連携型教育プログラム」実績集
（「学まち連携大学」促進事業実績集）

（2017年4月～2018年3月）

京都橘大学産学公地域連携推進機構
地域連携センター
Center for Regional Collaboration

はじめに

木 下 達 文
地域連携センター長

地域連携センターの実績と役割

「京都橘大学地域連携センター」は、2014 年 4 月に、それまで設置されていた「文化政策研究センター（設立は 2000 年。その後、2012 年に「地域政策・社会連携推進センター」と改組)」をより発展的に展開させ、大学全体として地域社会や地方自治体・企業・NPO 法人等と様々な連携事業を展開しています。また、各学部の教育・研究成果を社会に還元するエクステンション講座や、職業をもった人に専門的な学習の機会を提供するリカレント講座も毎年実施しています。当センターは、清風館 2 階にあり、「研究交流スペース」を設置しています。利用は、本学学生・教職員のみならず、学外からの来訪者も可能であり、各種研究会・学習会等、自由な学習・研究活動に利用できます。加えて、文化政策、公共政策、現代ビジネス等に関する各種の基礎的資料が収集・整備され、利用が可能となっています。

2017 年度は「学まち連携大学」事業を展開

このように、大学としては長期に渡る地域連携事業を実施してきており、近年ではその成果を年度毎に『地域連携実績集』としてまとめるようにしています。そうした中で､昨年度は京都市の「学まち連携大学」事業を受託（4 カ年事業）することができ、以下の 3 つの基幹課題と、7 つの教育プログラムを展開することといたしました。3 つの基幹課題とは、①「暮らしの安心・安全・健康・福祉・育ちあい」、②「地域 (経済) 振興、まちづくり」、③「地域文化・歴史の継承、観光振興」です。これらの重点課題に沿って 7 つの教育プログラムを対応するような形で事業展開を始めました。昨年度はフライトプログラムとして、まずは個別に事業を立ち上げていく段階としての位置づけでしたが、今年度はそれらの事業をより定着化させるため、しっかりとした下地づくりの段階になったかと思います。これまで本大学が総合的に取り組んできた地域連携活動をよりパワーアップする形になっているかと思います。この実績集は、今年度もとくにこの「学まち連携大学」事業における教育プログラムを中心として編集させて頂いております。

まちなか拠点としてのサテライトと今後の課題

昨年度末に「学まち連携大学」事業の一環として山科駅前に大学のまちなか拠点としてのサテライト・ラボラトリー「たちラボ山科」を設置いたしました。京都橘大学としては、学外の拠点としては醍醐中山団地に設置した地域連携センター分室に続く 2 例目のサテライトとなりますが、駅前等繁華街に設置するのは初めての試みとなりました。スペースの改修工事や運用規定などを整備するのに時間がかかってしまいましたが、2017 年の 10 月より本格的な稼働を始め、だんだんと学内外における利用が広がってきています。サテライトのスペースは収容人数が 10 人程度とそれほど大きくはありませんが、駅からすぐ近くですので、気軽に使え集える場として、あるいは地域とつながる場として今後も新しい利用のあり方を考えていければと思います。今後はこうした地域連携活動をより広く知って頂くための広報展開や、本学が比較的弱かった産学連携の分野へも積極的に広げていくことを検討しております。今後ともどうぞご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

2017 年度

京都橘大学「地域連携型教育プログラム」この１年の歩み

2017 年	4 月	救急救命学科の学生が、京都市立病院で災害訓練の一環で行われた「みぶメディカルラリー」に参加（4/3）
		たちラボ山科開設記念企画「狂言とワークショップの夕べ」を開催（4/21）
		看護学部教員による「看護フェスタ～たちばな健康相談」をたちラボ山科にて開催（5/11 ～ 14）
		看護学部教員と学生が老人保健施設いわやの里で「いちごカフェ」を開催（4/24）（毎月開催）
		看護学部教員と学生による、地域の高齢者に手芸を教えていただく『はなたちばなの会』を開催（4/27）（毎月開催）
		看護学部教員が山科区老人クラブ連合会と「たちばな楽学食堂」を本学にて開催　（4/28）（隔月開催）
		児童教育学科のボランティア団体げん kids ★応援隊が「草津宿場まつり」に参加協力（4/30）
	5 月	たちラボ山科学生委員会企画「ビブリオバトル@アクティブコモンズ」を開催（5/25）
	6 月	救急救命学科学生が同志社中学校で心肺蘇生の講習を実施（6/2）
		看護学部による健康指導・測定会を山科区総合福祉会館で実施（6/2）
		看護学部のプライマリケア実習「お助け隊」を醍醐中山団地にて実施（6/3）
		心理臨床センターが地域の方を対象とした子育て相談「パパとママのこころ育て広場」を開催（6/10）（毎月開催）
		たちラボ山科学生委員会がたちラボ山科にて視覚障がい者との交流会を開催（6/15）
		看護学部が山科区老人クラブ連合会と体力測定会を共催（6/16）
		救急救命学科学生が京都市立安朱小学校で心肺蘇生の講習を実施（6/19）
		理学療法学科学生による「みんないきいき幸齢教室」を醍醐中山団地で実施（6/24）
		児童教育学科のボランティア団体げん kids ★応援隊が勧修小学校のキャンプに参加し子どもたちと交流（6/24 ～ 6/25）
	7 月	たちラボ山科学生委員会がニューズレター「たちラボかわらばん」創刊（7/1）（毎月発行）
		救急救命学科学生が大宅こども園にて先生対象の心肺蘇生講習会を実施（7/7・7/14）
		看護学部による健康イベント「たちばな健康相談 in 醍醐中山団地」を開催（7/8）
		児童教育学科佐野ゼミの学生が山科区のももの木学園にて音楽のアウトリーチの活動（7/7）
		歴史遺産学科の学生が山科区の毘沙門堂で文化財防災研修を受講（7/8）
		発達教育学部池田ゼミの学生が山科区内の児童館で子どもたちの夏休みの宿題等の学習活動支援を実施（7/25）
		京都市児童館学童連盟および京都市と、児童館における学習支援事業に係る協定を締結（7/28）
		「京都橘大学フェスティバル IN KYOTO STATION」で学生団体がパフォーマンスを発表（7/29）
		救急救命研究会 TURF が JR 西日本あんしん社会財団の活動助成報告会に参加（7/30）
		都市環境デザイン学科金武ゼミの学生が京都に設置された文化庁地域文化創生本部でのインターンシップに参加（7 月～ 9 月）
		洛東ロータリークラブ創立 30 周年記念事業に本学の茶道部・吹奏楽部・救急救命学科 TURF が参加協力（7/31）
	8 月	救急救命学科学生が椥辻保育園の園児 60 名を対象に PUSH コース（心肺蘇生の講習）を実施（8/2）
		都市環境デザイン学科まちづくり研究会が清水焼陶芸教室を開催（8/2）
		都市環境デザイン学科学生が那智勝浦町との連携による「熊野再発見プロジェクト」に参加（8/2 ～ 8/4）
		全国認定こども園協会京都府支部および京都市と、幼稚園教諭免許状更新の連携・協力に関する協定を締結（8/4）
		児童教育学科のボランティア団体げん kids ★応援隊が「京の七夕 2017」に参加（8/5 ～ 8/11）

2017 年	8 月	醍醐中山団地夏祭りにて清水焼絵付けを実施（8/19）
	9月	心理学科学生による「こころなごみカフェ」を醍醐中山団地にて開催（9/2）
		救急救命学科の学生 4 名が NHK 奈良の開局 80 周年イベントに参加、心肺蘇生普及活動を実施（9/7）
		山科警察署と「京都府山科警察署と京都橘大学との協力に関する協定」を締結（9/11）
		「 第 9 回橘セッション」を開催（9/13）
		平成 29 年度第 1 回山科区役所との連絡協議会（9/14）
		2017 年度第 1 回「山科醍醐地域教育懇話会」を開催（9/14）
		本学で京都の伝統産業や伝統文化に携わる第一人者をゲストスピーカーに招いた授業「京都産業文化論」がスタート（9/27）
		醍醐中山団地にて大学祭実行委員会の学生による「高齢者の集い」を開催（9/24）
	10 月	醍醐中山団地に入居する学生による「シェアルーム入居者ご挨拶会」を実施（10/1）
		京都府内の 10 大学が首都圏の活動拠点とする「京都アカデミアウィーク in 丸の内」に本学が参加（10/3 ～ 7）
		本学が協定を締結する草津市、那智勝浦町、山科区の 3 自治体を招き、大学開学 50 周年を記念した植樹式を挙行（10/6）
		児童教育学科のボランティア団体げん kids ★応援隊が草津市「大路区民まつり」に参加（10/5）
		本学と山科区役所、清水焼団地協同組合、自治会、老人クラブなどで組織する実行委員会による「第 10 回やましな江駅前陶灯路」を開催（10/7）
		看護学部の実習で伏見区合同庁舎「元気はつらつフェスティバル」にて「健康教室」を実施（10/12）
		たちラボ山科学生委員会が地元住民との交流企画「山科街かどトレジャー」を開催（10/14）
		本学と協定を結んでいる那智勝浦町にて開学 50 周年を記念した植樹式を挙行（10/15）
		看護学部の実習で山科総合福祉会館にて「出張たちばな健康相談」を実施（10/25）
		まちづくり研究会・醍醐中山団地町内会共催の「学まちコラボ」補助金事業「醍醐中山団地陶灯路」を同団地にて開催（10/28）
	11 月	経営学科今井ゼミの学生が清水焼紹介パンフレットを作成（11/1）
		本学内で看護学部と健康科学部救急救命学科の学生・教職員と山科消防署との合同消防訓練を実施（11/9）
		看護学部の実習で百々学区にて「出張たちばな健康相談」を実施（11/9）
		たちラボ山科学生委員とまちづくり研究会の学生が「2017 年度大学地域連携サミット (キャンパスプラザ京都)」に参加（11/12）
		たちラボ山科学生委員会が山科商店会イベント「軒下バザール」に出店参加（11/15）
		心理学科学生が「マーケティング調査実習」で草津駅東口にて来街者 250 名の調査（11/18）
		都市環境デザイン学科木下ゼミ 4 回生によるオリジナルアイスクリーム「RICHA（リッチャ）」完成発表会を開催（11/20）
		理学療法学科学生による「みんないきいき幸齢教室」を醍醐中山団地で実施（11/25）
		心理学科と山科区保育園協議会との共催により研修会「統合保育の現状と地域連携」を開催（11/27）
		たちラボ山科学生委員会が地元住民との交流企画「ビブリオバトル@たちラボ山科」を開催（11/28）
	12 月	心理学科の学生が「マーケティング調査実習」で守山市モリーブにて来場者に面接調査を実施（12/1）
		看護学科のプライマリケア実習「お助け隊」を醍醐中山団地にて実施（12/2）
		児童教育学科のボランティア団体げん kids ★応援隊が山科区保育園協議会「赤ちゃんフェア」に参加協力（12/2）
		岩屋こども園アカンパニの園児対象の心肺蘇生講習の実施（12/6）
		看護学部神﨑准教授による草津市社会実験事業「産後早期の子育てにむけた家族教室」を開催（全 6 回）（12/2 ～ 2/24）
		看護学科教員による測定・健康相談を滋賀県大津市で実施（12/4 瀬田公園体育館・12/20 和邇体育館）
		醍醐未生流京都橘大学支部生け花講座の学内花展を開催（12/13 ～ 19）

2017 年	12 月	都市環境デザイン学科木下ゼミ 3 回生による「オリジナルディフューザー」完成発表会を開催（12/18）
		都市環境デザイン学科福井ゼミ「OSAKA 観光まちづくりコンテスト」ポスターセッション部門で第一位表彰（12/19）
		看護学部の実習で「笑顔とふれあいの家みささぎ」にて「出張たちばな健康相談」を実施（12/20）
		心理学科「地域課題研究」の授業で山科区長堀池正彦氏より「京都市山科区における地域課題と取り組み」の講演（12/25）
		文学部が京都検定対応したスマホアプリ「educa（エデュカ）」を京都電子計算株式会社と共同開発（12/26）
2018 年	1 月	心理学科学生による「こころなごみカフェ」を醍醐中山団地にて開催（1/13）
		看護学部による健康イベント「たちばな健康相談 in 醍醐中山団地」を開催（1/20）
		看護学部小板橋教授による公開講座「リラクセーション講座」を開催（1/26）
	2 月	経営学科の松石泰彦教授と加藤諒助教による PBL 授業参加学生が住商アーバン開発 (株) との産学連携節分イベントを MOMO テラスで開催（2/3）
		一般社団法人山科経済同友会が地域の文化振興のために主催する「山科夢舞台」に本学の京炎そでふれ部・和太鼓部・写真部・茶道部が参加（2/4）
		都市環境デザイン学科谷口ゼミの学生が、学生目線で京都の「こだわり」を持った店を紹介した冊子『こだわり市場』を今年も発刊（2/15）
		「京都駅大階段駆け上がり大会」に和歌山県那智勝浦町と京都橘大学との合同チームが参加（2/24）
	3 月	平成 29 年度第 2 回山科区役所との連絡協議会を開催（3/20）
		2017 年度第 2 回「山科醍醐地域教育懇話会」を開催（3/20）
		都市環境デザイン学科金武ゼミ 3 回生による日帰り旅行企画が (株) らくたびの「京都さんぽ」の 1 コースとして商品化 (3/21)
		京都市交通局が主宰する駅ナカアートプロジェクトに都市環境デザイン学科河野ゼミが参加（3/28 ～ 5/31）
		京都市「学まち連携大学」促進事業として、第 10 回橘セッションを開催（3/28）
		国際英語学科学生が英語版山科観光ガイドと冊子を作成（3/30）

Ⅲ
「学まち連携大学」促進事業の実績

京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」促進事業）

山科を元気にする学生グループ

地域連携センター学生委員会「たちラボたち」

京都橘大学サテライト・ラボラトリー「たちラボ山科」

地域連携センター学生委員会「たちラボたち」始動！

2017年４月、地域連携活動に関心のある学生を学内で募り、地域連携センター学生委員会「たちラボたち」を結成しました。呼びかけに対して文・社・医療系の各学科から７名の学生が集まり、山科駅前に開設した京都橘大学サテライト・ラボラトリー「たちラボ山科」を拠点に、さまざまな活動を行っています。

たくさんのイベントを通じて地域と交流

集まったメンバーで話し合いを重ね、2017年度は「週に１度たちラボ山科での定例会の実施」、「月に１度学生スタッフ考案の地域連携企画の開催」、「活動発信のための定期広報紙の制作」を基本の活動に設定しました。

「地域連携企画の開催」では、イベントごとにリーダーを決め、看護学部学生をリーダーとした視覚障がい者団体との交流会、文学部学生をリーダーとしたビブリオバトルなど、学生がそれぞれの興味・関心に沿った企画を考え、楽しみながら地域の方と交流しました。

また山科商店会主催の地域のお祭り「軒下ばざーる」へも参加し、子どもを対象に、山科区の魅力を伝えるぬり絵コーナーを運営するなど、地域への貢献活動も行いました。子どもと接する経験が少なく、はじめは戸惑っていた学生もいましたが、段々と子どもの心をつかみ、上手に接するようになりました。

そして、それらの地域連携活動の情報を広報紙「たちラボかわらばん」に掲載しました。毎号、企画リーダーの学生がコラムを担当し、活動を通して感じたことを発信しました。伝えたいことはあるものの、なかなかうまく文章にできず、人に伝える文章を書く難しさを痛感しました。

活動から得たものと、今後の「たちラボたち」

2017年度は何もないところからのスタートでしたが、手探りではあったものの、いくつかのイベントを開催し成功させることができました。この活動を通して、学生に自信が生まれ、地域の方々とのつながりができ、そして地域に対する愛着が芽生えました。また、「広報は十分な期間が必要」など、次に改善すべきポイントに気付けたことも、大きな収穫となりました。

次年度以降は、メンバーの役割の明確化、新入生を中心とした新規メンバーの獲得などを課題として、さらに活動を推進していきます。

広報紙「たちラボかわらばん」

ビブリオバトル

軒下ばざーるへの出展

視覚障がい者の方々をたちラボへ案内

京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」促進事業）

地域の防災活動を担う若手の育成

『防災リーダー養成プログラム』

健康科学部救急救命学科１回生 地域課題研究

概要：地域防災の担い手として

東日本大震災をはじめとする大規模な災害や地震、豪雨・洪水、台風など異常気象からくる想定外の被害が多発しています。さらに近い将来、南海トラフや東南海大地震・大津波、首都直下地震、大規模火山などの巨大災害の発生が懸念されています。このような事態に対応するためには、国や地方公共団体ばかりでなく、市民自らが自身と地域住民の命や生活を守ることができるよう、平常時から災害対応力を高めておく必要があります。そのため、本プログラムは、地域で率先して防災活動を実践する人材の育成を目的としています。救急救命学科１回生必修科目「地域課題研究」で実施しました。

2017 年度プログラム

第１回	10 月 6 日	○ COC オリエンテーション　○開校式（関根） ○地域防災リーダー入門 60 分間：講義　15 分：チェックシート記入　30 分：グループワーク
第２回		○演習①　講義：防災訓練概論 訓練：DIG もしくはクロスゲーム
第３回	10 月 13 日	○災害対策論：京都市消防局（京都市消防局） 日本における防災対策の仕組み、地域防災対策計画、自助・共助・公助等々
第４回		○災害一般論：京都市消防局 最近の災害における被害の特徴、災害時要支援者対策、帰宅困難者対策、居住形態別（密集市街地、超高層マンション、重工混在地域等）の被害の特徴等 ○クロスゲーム京都市版 ○消火器の使用方法
第５回	10 月 27 日	○演習②　講義：避難所開設・運営（千田）
第６回		○演習②　訓練：避難所運営訓練（HUG）
第７回	11 月 3 日	○災害時の要配慮者対策（久保山）
第８回		○演習③　地域の復旧・復興　クロスゲーム ○明日からの取り組み記入 ○閉講式
第９回	1 月 15 日	○演習④　講義：消火器の使い方と実践

実施の様子と成果：地域から学び、備える

前期「教養入門」の学修により得た、地域社会と大学および大学生の役割についての基本的な考え方を基礎に、プログラムをとおして①地域課題を発見する力、②地域課題の解決法について考える力を身につける。さらに③防災リーダーとしての資質を身につけることに重点を置きました。

取組みを通して、災害の基礎的な知識だけでなく、自分の住んでいる地域の特徴を理解し、常日頃備えておく技能を身に付けました。さらに自助・共助・公助の役割を知り、災害が起きた際に自分が地域活動の中心となれるよう、地域の防災意識向上を目的としたクロスゲームや避難所運営ゲームなどの演習を行いました。演習を通して、疑似的ではありますが地域活動の当事者（中心）になったつもりで、運営やトラブル・要配慮者への対応など現場を想像し真剣に取り組みました。これまでの学びから、防災に対する意識が高まり、今日からできる防災の実践と、いざという時の担い手としての意識が芽生えました。

避難所運営ゲーム（HUG）

消火器の取扱い

京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」促進事業）

京焼・清水焼、「清水焼団地」を対象とした

地域資源の活用をつうじた山科地域の活性化へ向けた活動

現代ビジネス学部経営学科 今井まりなゼミ学生

活動の概要と取り組みの経緯

今井ゼミ 3 回生の 16 名は、地域資源の活用をつうじた山科地域の活性化へ向けた活動を行っています。地域資源とは、1 地域の特産物として相当程度認識されている農林水産物や鉱工業品、2 地域の特産物である鉱工業品の生産に係る技術、3 文化財、自然の風景地、温泉その他の地域の観光資源として相当程度認識されているものの 3 タイプに分類されていますが、今回は、1 ならびに 2 に該当する、京焼・清水焼、ならびにその窯元が集積している「清水焼団地」について、その認知度を向上させるためのチラシを作成し、配布しました。

活動内容

チラシの作成、配布に関する具体的なプロセスは以下のとおりです。

1　清水焼の制作体験を行う。また、「清水焼団地」へ訪問し、事務局の方々や窯元の方々から聞き取りを行う
2　1 に基づいて、チラシのコア・ターゲットを明確にする (検討の結果、大学生、外国人観光客に決定)
3　チラシのデザインやレイアウトの方法、ソフトの使い方についてデザイナーの方から講習を受ける
4　ターゲットごとにチラシの内容、レイアウトを決定し、デザイナーの助言を受けつつチラシを制作する
5　完成したチラシを印刷し、各ターゲットに配布する

活動の成果

今回の活動を通じて、プロジェクト・チームのメンバーは、限られた時間の中で、チラシを完成させるという共通目標に向かってチームで作業を行ってきました。このチームのメンバーは京焼・清水焼の生産者である窯元の方々や清水焼団地の事務局への聞き取りから、チラシのコンテンツの決定、さらには、イラストレーターやフォトショップを用いてチラシを一からデザインし、その成果を、学生自らで配布するというという 貴重な経験を積むことができました。メンバーは、これら一連のプロセスを通じ、ソフトウェアの操作技術や、地域の産業が抱える課題を理解することとともに、チームでの課題解決の経験、ならびにチラシを作成する一連のプロセスを最後までやり抜いた経験が、学生にとってのなによりの財産となると考えています。

京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」促進事業）

山科区・南区の子どもたちと

音楽を通した交流―アウトリーチ活動

発達教育学部児童教育学科３回生 佐野仁美ゼミ

活動のスタート

３回生ゼミ活動の一環として、音楽の出張コンサートを始めて６年目になります。着任当時、児童教育学科では子どもたちとコミュニケーションを上手く取れる学生が多いにもかかわらず、音楽に対する関心が薄いように感じました。そのような状況の中、少しでも音楽的な雰囲気づくりに寄与したいとの思いから、学生にも、地域の子どもたちにもプラスになるような活動を考えたのがきっかけです。当初は音楽が得意でない学生も多かったことから、特別な能力は必要なく、全員で力を合わせて取り組めるものとしてトーンチャイムを用いたプログラムにしました。選曲や編曲、練習計画の立案と実行のすべてを学生自身で行っています。

本年度の活動

本年度も７月10日に山科区のももの木子ども園にて七夕音楽会、12月９日に南区の京都市立吉祥院小学校の土曜学級においてウィンター・コンサートを行いました。その他、学生の希望により、ゼミの自主的活動として、地域の子どもが集まる10月のちびっ子ランドでも演奏しています。本年度はサックスの二重奏やホルンとフルートのアンサンブルを入れるなど、趣向を凝らしたプログラムを組むことができました。ももの木子ども園副園長の紺谷典子先生からは「学生の皆さんのよく考えられた企画進行、たのしいお話、素敵な演奏に子どもたちも私たちもぐんぐん引き込まれていきました。２歳３歳の小さな子どもたちも最後まで集中して全身で音楽を楽しんでいる様子でした。特にチャイム、フルート、ホルン、サックスの演奏は、音色やハーモニーがとても美しく、うっとりと聞き入りました。子どもたちにとって間近に本物に触れる貴重な経験になったと思います」とのお便りをいただきました。

音楽を通したゼミづくり

昨今の保育園や幼稚園には音楽活動に力を入れている園も多く、子どもたちへの出前コンサートは音楽をやってみたいという動機付けになると同時に、未来の聴衆を作ることにもつながります。対して学生にとって、企画力や演奏技術の向上など演奏会を開催するための学びに加え、初めて出会う子どもたちの前で演奏したり子どもたちと交流したりしたことは、実習とはまた違った経験になったようです。さらに、みんなで力を合わせてうまく演奏できたときの気持ちよさを感じるにしたがい、３回生当初はまとまりがなかった学生間にも相手を思いやる心が芽生えてゆきました。学生とともに私も音楽の持つ力を実感しています。

全員でトーンチャイムの演奏

子どもたちを魅了したサックス二重奏

京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」促進事業）

地域の人たちとの信頼関係を築く

げん Kids ★ 応援隊　活動記録

発達教育学部児童教育学会有志

山科・醍醐地域の人たちとの絆を深める

「げん Kids ★応援隊」は 2008 年に結成され、今年度で 9 年目の活動となりました。活動を通して、子どもたちや保護者との交流を深めるとともに、企画の運営や子どもとの関わり方など多くのことを学んでいます。今年度は、地域からの依頼が多く、小学校での行事やお祭りにもたくさん参加し、地域との絆をさらに深めることができました。

6 月　理科実験企画（スライム・小麦粉粘土・キャンドルお絵描き）
　　勧修小学校「第 8 回おやじの会・学校キャンプ」
7 月　水遊び企画（水風船・水鉄砲・シャボン玉づくり・プール）、勧修小学校夏祭り
8 月　京の七夕（うちわ作り）
　　地蔵盆（大宅御所田町・大宅古海道町・大宅五反田町・山科団地 2 棟自治会）
9 月　山科団地祭り、勧修ふれあいの集い
10 月　小野バザー、山科おやじフェスタ
11 月　スポーツ企画（ドッジボール・しっぽとり・借り物競走・けいどろなど）
　　下京子どもまつり、勧修もちつき大会
12 月　山科区赤ちゃんフェア
　　クリスマス企画（ツリー作り・リース作り・プラバン・ビンゴなど）

理科実験企画

大宅五反田町地蔵盆

勧修もちつき大会

地域の人たちの励ましの声が活動の原点

「げん Kids ★応援隊」の活動の魅力は、同じ子どもと何度か出会えるチャンスがあることです。子どもの成長が感じられることに加えて、心の距離が縮まっていくのを実感できると言います。また、保護者の方の励ましの声も大きな支えになっています。企画後のアンケートに書かれている心温まるメッセージや、子どもたちの「楽しかった」という声が「げん Kids ★応援隊」の活動の原点になっています。活動をするにあたっては、楽しいことばかりではなく、辛いことや思うようにいかないこともあります。それでも、仲間での支え合いや地域の人たちの協力で活動が年々広がっています。

京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」促進事業）

若者をターゲットとした入門用香り商品の企画・開発

学生企画によるオリジナルディフューザー『Aromandarin』の研究開発

現代ビジネス学部都市環境デザイン学科 木下達文ゼミ

オリジナルディフューザーの研究開発経緯とその概要

今回のオリジナルディフューザー（ルームフレグランス）の研究開発も都市環境デザイン学科木下ゼミにおける共同プロジェクトの一環として実施しています。

今年度の３回生ゼミでは、いくつかの企画内容から「商品開発」がメインとなり、その中でも「香り」を意識した商品を開発していくことで決定しました。まず、京都橘大学の在学生の香りに対する意識改革や山科の地域ブランドの創出というコンセプトのもと、香りに馴染みのない人に使ってもらえるような商品を研究開発するに至りました。専門的・実践的な知識を得るべく、山科のフレグランス会社である株式会社アート・ラボの高木哲社長によるレクチャーをいただくとともに、香りの歴史および橘の歴史については、香りデザイン研究所の吉武利文所長による公開講演を実施しました。最終的に広く香りを利用してもらえるよう、研究開発商品は男性用・女性用・ユニセックス用の３種類を制作し、名前は「Aromandarin」としました。

学生の行動・学習と達成できたこと

プロジェクトは、大きく商品班（3 班）と広報班（1 班）に分かれ、完成まで責任を持ち商品知識の学習を行うとともに、ターゲットとなるそれぞれの商品の試作・制作および広報活動を行いました。商品班では、香りの選定、各種のパッケージやボトルのシールデザインについてヒアリングを行い、京都橘大学をモチーフにした商品開発をすることができました。一度、コンセプトを再確認し、誰に・どのように・いつ使用してほしいかを明確にすることで、利用者との認識の差を検証しました。一人でも多くの方に商品の魅力を知ってもらうため、完成発表会後から７日間、学内７ヵ所で「香りの空間演出」のプロデュースを実施しました。また、学内の生協で販売を行うにあたり、インパクトのある POP 作りや装飾・展示にも力をいれて行いました。広報班では、商品の宣伝ポスターや SNS を使った広報活動を行い、完成発表会にお越しいただいた方へ商品に関するアンケートを実施しました。その結果を基に今後の広報活動に活かしていく予定です。このような活動を通して、企画立案から販売、広報を経験し、商品販売の知識を身につけるに至りました。

課題について

今回の事業は、おもに各班に分かれて研究・実践活動を行ったため、全体の動きがつかみにくいという課題が残りました。各班のリーダーを配置するとともに、その上に統括リーダーという立場の役職を配置して取り組みましたが、それでもなかなか作業に参加しない学生がいました。また、最近の学生はスマートフォンなどで連絡を取ることが多くなっていますが、教室を一歩外に出ると意思疎通がとりにくく、意見集約が難しいという問題も残り、必要に応じてコアミーティングなどを積極的に行う環境をつくっていかなければならないと感じました。

京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」促進事業）

協働のまちづくりを学ぶ

地域連携 PBL 公務編

現代ビジネス学部都市環境デザイン学科小辻寿規助教 PBL ×山科区役所×㈱ビバ

学生たちと行政および指定管理者が協働で取り組む

本年度の地域連携 PBL 公務編においては、行政や京都市の公営施設の指定管理者株式会社ビバと協働で、イベントやウォーキングマップ作成などの課題に取り組みました。2016 年度から継続して山科区役所と行っているやましな GOGO カフェ活性化の取り組みとして、新たにやましな GOGO カフェのファシリテートを学生が行いました。本年度のやましな GOGO カフェにおいて新しい取り組みとしては、京都橘大学キャンパス内で開催されたこともあり、本学現代ビジネス学部都市環境デザイン学科 1 回生 130 名程度が参加し、山科区内を中心とした地域住民の方々と地域課題の共有をしました。株式会社ビバとの協働の取り組みは前年度発行した「山科ウォーキングマップ」の改善案の検討をすることになりました。

地域住民と行政の関わりから地域連携の今後を考える

近年は協働の取り組みが増え、地域住民と行政による地域課題解決に向けたまちづくり活動の実施が行われてきています。その中では学生も地域住民として社会課題にどのように向き合っていくのか、地域課題の改善案の提案など様々な役割が求められています。山科区役所との GOGO カフェにおける連携においては、学生にとってもまちづくりを他人事ではなく、自分事と捉える貴重な機会となっています。また、京都市役所が開催した「市政と " みんなごと " でつながる 2 日間～対話でつながる，つくりだす～」にも受講生が参加し、京都市役所の様々な部署の職員や京都市民と意見交換を行いました。

座学から実学へ

PBL は学生にとって、授業の座学による学びを実践に生かしていく貴重な機会となっています。「山科ウォーキングマップ」においては山科区内のラーメン店と交渉し掲載の許可を得る、その後、各店舗の掲載許可を確認するなど、授業で習ったマネージメントを実践によって習得する貴重な機会となっています。授業時間外でも集まり、企業や行政の方々とミーティングするなど、学生の主体性を育てる機会となっています。

本学で開催されたやましな GOGO カフェの風景

やましな GOGO カフェの準備風景

京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」促進事業）

京都の「こだわりの店」を紹介する

「こだわり市場」（小冊子および Web）の制作

現代ビジネス学部都市環境デザイン学科 谷口知司ゼミ学生

まち歩きで見つけたこだわりの店を広く紹介する

世界的な観光地である京都にも、まだあまり知られていない名店がたくさんあります。それをまち歩きで見つけ、取材し、広く知らせたいという思いから活動が始まりました。その時にお店を探す尺度が、そのお店の「こだわり」です。この活動は現代ビジネス学部都市環境デザイン学科の谷口ゼミで観光学を学ぶ学生を中心に、学生学会ツーリズム研究会の活動として行われています。

「こだわり市場」の取り組みと実績

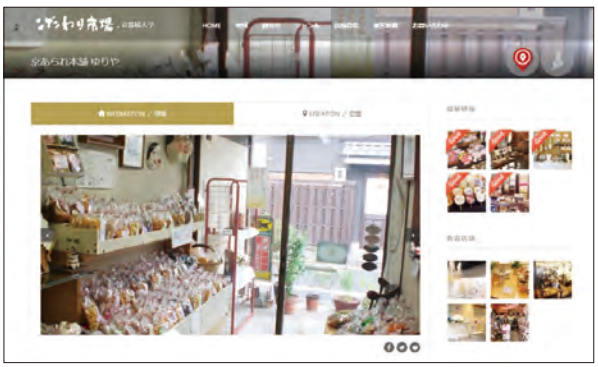
「こだわり市場」の活動は、2009 年にホームページ（http://kodawari-ichiba.net/）を公開したことに始まっています。その後、毎年新しいお店を加え、今日に至っています。

小冊子は 2013 年 11 月に一冊目を発刊し、その後、毎年度 1 冊のペースで発刊しています。2016 年度にはそれまでに発刊された 3 冊分のお店を再取材し総集編として発刊しました。これらの冊子は、京都総合観光案内所や市内のホテル等で配布しました。また、朝日新聞、毎日新聞、京都新聞などのマスコミにも取り上げられました。

5 冊目の小冊子の完成と、Web のリニューアル

今年度は新たに 22 店舗を取材し、5 冊目の小冊子を完成させました。お店探し、取材、そして小冊子の版下作りなど、すべて学生自らが行いましたが、その完成度については、プロからもお褒めの言葉をいただいています。

また、ホームページにも今年度分の 22 店舗を追加しました。



こだわり市場のホームページ

こだわり市場 2017 年度版冊子

京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」促進事業）

醍醐中山団地の住民を対象に

「看護お助け隊 in 醍醐中山団地」の活動

看護学部 2 回生 3 回生 プライマリケア実習×醍醐中山団地町内連合会

地域の住民も喜び学生の学びも得られる看護学実習の在り方

看護の対象となる人々の生活に視点をおくことは、看護を行う上で、非常に重要です。しかし、世代間交流が少ない近年の学生は、高齢者の生活をイメージすることが難しく、入院患者への援助を考える時の障害となっています。そこで、醍醐中山団地の住民の協力を得ながら、高齢者の生活を知る実習を計画しました。

醍醐中山団地は高齢化に伴い独居高齢者率も高く、4 階建ての団地にはエレベーターが設置されていないため、粗大ごみの搬出が容易ではありません。また部屋の模様替えや、風呂場や台所回りの掃除など、生活上の様々な困りごとがあると考えました。それらの困りごとに対して学生の力を活用し解決するともに、日常生活の場を観ることができ、日々の生活の話を聞かせてもらえると考えました。

学生を受け入れてくれる住民にとっては、日々の生活上の困りごとが解決し、学生にとっては家庭に上がり日常生活を観させてもらえる貴重な学習となり、互いにメリットがあると考えました。活動については、6 月 3 日（土）に 3 回生配当のプライマリケア実習Ⅱ、12 月 2 日（土）に 2 回生配当のプライマリケア実習Ⅰにて実施しました。

事前に棟長の方々を通じて実習協力者と作業内容を募り、その作業内容に合わせ学生配置と事前学習を実施しました。協力者は 23 世帯となり、1 世帯に学生 3 ～ 4 名を配置し、残りの学生は後方支援や集会場の掃除などを実施しました。作業を行いながら普段の買い物や食事など生活の様々な話をすることができました。学生が学びになったのはもちろんの事、普段若い人と話をする機会がなかった協力者にも、楽しい時間が過ごせたと喜んでいただけました。地域の住民も喜び、学生の学びも得られる、持続性のある看護学実習の方向性が導き出せたと思います。

それぞれの世帯へ

実施前の全体集合

活動の様子

京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」促進事業）

「京都の企業」とコラボし「京都らしいアイス」の提案

学生企画によるオリジナルアイスクリーム『RICHA』の研究開発

現代ビジネス学部都市環境デザイン学科 木下達文ゼミ

大学における共同プロジェクトの意味

都市環境デザイン学科の木下ゼミでは、毎年共同プロジェクトを実施しています。それは、集まったゼミ生がバラバラに行動するのではなく、一緒に行動し共通の成果を生み出すことで、達成感だけでなくそこにビジネス全般に関わる実践的な学びをして欲しいということで実施しています。また、こうした活動を通じて、人と人とのコミュニケーションをしっかり考える機会ともなります。これまでにも、香り付きのリップクリームやオリジナル学生手帳、あるいはコミュニティ冊子の研究開発などを実施しました。

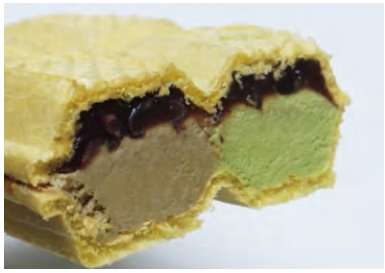
京都らしさを伝える商品のあり方について

2017 年度の 4 回生は「若者をターゲットにした京都らしい商品をつくりたい」ということを突き詰めて考え、最終的に若者が好きなアイスクリームという素材を使い、京都を感じさせることができる商品を 2 ヵ年かけて研究開発しました。昨年度は主に企画立案・基礎研究・事業設計を実施し、本年度は京都でアイス事業を行う提携企業と調整をし、「京都らしいアイスクリーム」の共同開発プロジェクトを立ち上げました。大学からは学生の感性を最大限に生かし、主に①若者向けの味のデザイン提案、②商品コンセプトに応じたパッケージデザイン提案、③若者をターゲットとした広報マネジメント提案の 3 点についての協力を行いました。①については、何度か試作を繰り返し最終的に「抹茶・ほうじ茶・小豆」を入れることとなりました。②は、パッケージおよびネーミング案を多数検討し「アイス画像のない家紋の入った京都らしいパッケージ」と「ユニークなネーミング」が採用されるに至りました。③は、SNS およびプロモーション映像を制作し、とくに活動状況を中心に広報を展開しました。映像指導には京都のプロダクションからのアドバイスも頂きました。

相互メリットと京都のブランド価値向上

最終的に 2017 年 11 月 20 日にアイスモナカ「RICHA（リッチャ）」として製品が完成し、完成発表披露のイベントを実施しました。その際、事業や成果に対するアンケート調査も行いました。また、12 月からは大学生協や京都市内のスーパーで販売もされるようになりました。

こうした産学連携事業というのは、学生が企業とコラボすることで実践力が養われ、教育成果が向上するばかりでなく、企業側にとっても大きなメリットがあるかと思います。とくに、学生の感性を生かした商品内容やパッケージデザインというものは、これまで企業では作り得なかった視点での開発が可能となります。また、広報展開においては、基本製造会社は作ることがメインとなり、そうした情報発信力の不足を学生がカバーするという関係性も作ることができました。京都のメーカーと京都の大学が協働して制作した京都のアイスが、今後少しでも京都のブランド価値向上に寄与できればと考えています。



やましな駅前陶灯路・イベント PR

京都橘大学×京都シティ開発㈱＋清水焼団地協同組合＋山科区役所＋
地元自治連合会＋山科区老人クラブ連合会＋駅前商店会

京都の伝統産業で地域活性化

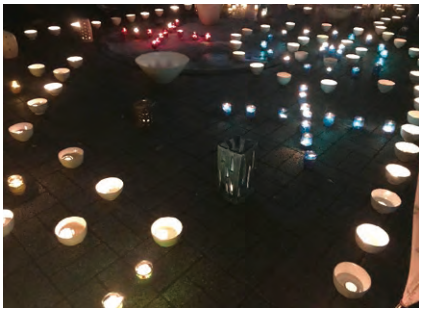
2017 年の開催で灯りイベント「やましな駅前陶灯路（とうとうろ）」は、第 10 回目を迎えました。今年度も昨年に引き続き京都の伝統工芸である京・和蝋燭を、地元産業である清水焼陶器に灯し、約 2000 個の幻想的な景色を作り出しました。第 10 回目ということでテーマを「十（とを）」とし、「十」の他、「陶」、「灯」の意味もかけました。本イベントでは、本学以外にも京都シティ開発㈱、清水焼団地協同組合、山科区役所、地元自治連合会、山科区老人クラブ連合会、駅前商店街などが連携し、伝統産業の振興や地域の活性化に大きく貢献しています。

共に響きあう場づくり

本年度の陶灯路の特徴として、学生たちによるゾーンデザインのみならず、地域住民の方々もゾーンデザインに取り組んだことが挙げられます。今まではそれぞれの役割が決まっているイベントでしたが、役割のみならず参加団体それぞれがイベント全体を俯瞰し関わる体制ができてきました。その中で学生たちもイベント運営のコーディネートを行い、調整能力や実行能力を養いました。

去年の課題を生かす

2016 年度には様々な PR 活動を行いましたが、本年度は SNS による情報発信や昨年好評だったスタンプラリー企画の改善を行いました。SNS による情報発信においては、先行する七夕陶灯路のフォトコンテストを行うことにより、陶灯路の灯りの魅力を発信し、やましな駅前陶灯路への期待を来場者に対して高める効果が出ました。スタンプラリーにおいては、イベントの盛り上げに貢献した他、帰宅後の思い出の品となり次年度以降の陶灯路にも参加を促すよう景品のキーホルダーを新規に作成し配布しました。次年度以降も、地域住民、産業界、行政等と連携し、より美しく、より魅力ある陶灯路を開催できるよう準備していく予定です。



陶灯路の風景

陶灯路の PR 活動

京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」促進事業）

醍醐地区の高齢者を対象に

みんないきいき幸齢教室

健康科学部理学療法学科学生×地域連携センター醍醐中山団地分室

健康体操～幸せに歳をとりましょう～

「みんないきいき幸齢教室」は、理学療法学科の学生が主体となり、山科・醍醐地域の高齢者を対象にさまざまな健康体操を行っています。2015 年度から始まり今年で 3 年目になります。地域在住高齢者は、健康状態に問題がなく自立して暮らすことができる期間を示す健康寿命を長くして、今後寝たきりにならないようにすることが大切とされています。このような背景から、転倒予防や認知症予防を目的とした「みんないきいき幸齢教室」を始めました。

今年度は 6 月と 11 月に醍醐中山団地で開催し、どちらの回も学生と高齢者の方、合わせて約 25 名が参加しました。実施内容はストレッチ、筋力アップエクササイズ、脳トレ体操などのレクレーションを行いました。参加した全員が笑顔でいきいきとすることができました。

学年の枠を越えた取り組み

「みんないきいき幸齢教室」は、理学療法学科の先輩と後輩が一緒に取り組むことの出来る交流の場となっています。企画会議では、学年の枠にとらわれず意見を出し合い、全員でより良い活動になるように、何度も話し合いました。このような活動によって、下級生は今後の学習や実習に活かせる経験を積むことができました。また上級生にとっては、下級生の模範となる責任感をもった行動や振る舞いができるようになりました。

体操の様子

京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」促進事業）

ショッピングモールに新たな場としての魅力を

MOMO テラスと連携した地域活性化イベント PBL

現代ビジネス学部経営学科松石泰彦教授と加藤諒助教 PBL × MOMO テラス

「知財活用アイデア全国大会」からの展開

この取り組みは、伏見区桃山のショッピングモール・MOMO テラス（住商アーバン開発株式会社）において、地域の活性化につながるような季節に応じたイベントを企画・実行するというものです。前年度におこなわれた富士通株式会社等主催「知財活用アイデア全国大会」（2017 年度休止）で、本学 PBL チームは京都タワーの照明を使ったイベント等の発表をしましたが、それを見た同モールからオファーをいただき連携企画へと展開することとなりました。

節分の日、MOMO テラスで子どもたちが鬼退治

公募により集まった経営学科･都市環境デザイン学科の 2･3 回生計 8 名が、まず MOMO テラス側からの要望を聞きとった上でイベント内容案を検討・作成、それを MOMO テラスに提案し協議を重ねながら、最終的に節分の日（2018 年 2 月 3 日土曜日）に同施設のアトリウムにおいて、親子連れ、特に小さなお子さんをターゲットにした疑似豆まきのイベントをおこなうことになりました。寸劇で豆まきの状況へと導いてから、3 体のかわいい鬼のパネルに豆に見立てたビニールボールを投げてもらうという内容です。メンバーはそれぞれ役割分担してシナリオや広報資料の作成、機材・道具の調達や製作などに当たり、当日 12：00 と 15：00 の 2 回イベントを実施しました。寸劇では本学児童教育学科の 3 人の学生も参加して大いに盛り上げてくれました。狙い通り、ボールを投げるという行為は子どもたちにはたいへん好評で、鬼と一緒に写真を撮るコーナーも大人気でした。

企画と運営を知る

この活動を通じて、学生にはたいへん大きな成長がありました。イベント当日を除いて計 20 回以上のミーティング、4 回の企業との打ち合わせをしながら、①自分たちで意見を出し合いながらアイデアを練り込んでいくディスカッションと協業の実践、②季節の選択やターゲット層の設定などイベント企画を練り上げていく一連の段階の実体験、③企業側との打ち合わせを通じてのビジネス基準やマナーの経験・修得、④各種資材や人員の調達・配置など物的・人的なマネジメントの実践など、学べることが多い活動でした。また、前年度の PBL の取り組みが地域企業の目に止まり、このように次の企画へと展開したことも重要な成果でしょう。なお、この MOMO テラスとのイベント活動は今後も継続していく予定です。

京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」促進事業）

山科区、醍醐地区の住民を対象に

たちばな健康相談

京都橘大学看護異文化交流・社会連携推進センター：健康支援事業

地域住民の方々の健康の保持・増進を目指して

京都橘大学看護異文化交流・社会連携推進センターにおける健康支援事業では、『地域住民のニーズにもとづいた健康相談や生涯学習などの活動を通じて、その方々の健康を支援する』という目標のもと、種々の活動を行っています。その一環として『たちばな健康相談』を実施しています。開学部年度から大学祭において実施している「たちばな健康相談」は、今年度で13回目を迎えました。また、『出張たちばな健康相談』として大学から地域へ出向いて行う健康相談も実施しています。

第13回たちばな健康相談・出張たちばな健康相談

たちばな健康相談は看護学部の教員および学生ボランティアの協力のもとに実施しています。第13回たちばな健康相談は大学祭期間に実施しており、身体計測（慎重、体重、腹囲、体脂肪率）、血圧測定、骨密度測定、血管年齢測定、脳年齢測定、ストレスチェック、塩分チェック、健康相談などを行いました。また、出張たちばな健康相談は伏見区醍醐地区の醍醐中山団地の集会場へ出張し、健康相談を実施しました。本学は、京都市および醍醐中山団地町内連合会と地域活性に寄与する取り組みを目的として、連携協定を締結しており、看護学部として地域住民の健康の保持および増進を目的として出張たちばな健康相談の活動を展開しています。学内におけるたちばな健康相談に準じた内容を実施いたしました。

地域住民の意識と住民とのかかわりを通しての学生の学び

『たちばな健康相談』『出張たちばな健康相談』ともに継続して参加している方も多くなってきています。住民の方々の健康意識の高まりを感じると同時に、これからもより多くの方々に参加していただけるよう、地域住民の方々が参加したいと思えるような健康相談を実施していきたいと思っています。また、ボランティアで参加している学生にとっても学びの場として重要な意味を持っています。参加者の誘導や各種測定等を行いながら、実際の地域住民と主体的に交流することで、地域で生活する人々に対する理解が深まり、実践を通じた対人関係の構築やコミュニケーション技術の獲得および向上の場となっています。また、学外の活動への参加を通して、地域の実際を見ることにより、地域の様子や生活環境を踏まえた参加者の日々の生活を実際に理解することへつながり、健康増進に向けた具体的な支援を検討できる学びの場となっています。これからも地域住民の健康を支援できるような活動による地域の活性化と、学生の学びにつながる事業を目指したいと思います。

健康相談
（第13回たちばな健康相談）

ストレスチェック
（第13回たちばな健康相談）

脳年齢測定
（出張たちばな健康相談）

京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」促進事業）

「たちラボ山科」から地域のみなさまへのご挨拶

たちラボ山科開設記念「狂言とワークショップの夕べ」

文学部日本語日本文学科学生×狂言師茂山良暢氏

サテライト開設のご挨拶として

この取り組みは、京都橘大学サテライト・ラボラトリー「たちラボ山科」の開設記念として、地域の皆様との和やかな関係を築きたいという気持ちを込めて企画したイベントです。

「たちラボ」のスペースが小さいため、今回は近くの京都市生涯学習総合センター「アスニー山科」をお借りして行いました。

地域の商店街の方が閉店後に来ていただけるように、またお勤め帰りの方が立ち寄っていただけるようにと開始時間も18：30（開場は18：00）としました。

大学と地域のコミュニケーションを目指して

イベントの前半は大蔵流狂言師茂山良暢（現茂山忠三郎）先生（本学客員教授）による狂言ワークショップ。みんなで大笑い・中笑い・小笑いの所作を真似てみました。「腹の底から」笑うという経験は、ふだんはあまりないだけに意外とできないものだと実感しながら、参加者全員で笑える時間を共有できたことは目的にかなったすてきな体験でした。そのあと、衣装の着付けを目の前で見せていただきました。

後半は狂言『酢薑（すはじかみ）』を上演していただきました。この演目は酢売りと薑売りが道で出会い、途中で言い争いになるのですが、相手に調子を合わせたり、ともに笑ったりして、和気あいあいの感じになっていきます。最後はいっしょに大笑いして留めるという、とてもおめでたい狂言です。「たちラボ」を拠点として、商店街のいろんな方々とよい交流ができますようにという大学の願いが伝わるような演技をしていただきました。

日本文化の学びにつなげる

このイベント企画は、日本語日本文学科の学生が長年こども狂言の稽古をしていることから始まっています。今回も笑いのワークショップでお手本を見せてくれたほか、ほかのゼミ生たちとともに会場設営・後片付けなどで活躍してくれました。今後、日本文化を体験する授業で自ら学んだことを伝えていく訓練を積んでもらう予定をしており、今回のイベントは良い経験になりました。

京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」促進事業）

心理学科主催イベント

こころなごみカフェ

健康科学部心理学科学生

「語り」そのものの持つ力を活かす

京都市「学まち連携大学」推進事業の一環として、健康科学部心理学科では、2017 年に「こころなごみカフェ」の取り組みを開始しました。本学と提携を結んでいる、醍醐中山団地に出向いて実施する、主に高齢者を対象とした茶話会形式のイベントです。今年度は、9 月 2 日（土）、1 月 13 日（土）、3 月 17 日（土）の 3 回、10 時 30 分から 12 時まで、醍醐中山団地内の本学地域連携センター分室・交流室での開催でした。

同団地においては、すでに本学から看護学科や理学療法学科などが出向いて、さまざまな住民支援イベントを実施しており、イベントそのものはもちろんのこと、終了後に学生との交流を楽しみにされている住民の方も多いとお聞きしておりました。そこで、心理学科としては、その「交流」「語り合い」の部分をメインとしてみようと考えて、このイベントを企画しました。

「語る」ことには、それだけで心理療法的な意味もあります。特に高齢者の方にとっては、過去の懐かしい思い出を誰かに語ることで、脳が刺激され、精神状態を安定させたり、認知機能を改善させたりする効果が期待できるとも言われています。もちろん、このイベントは、専門家が行うわけではなく、心理学科の学生によるものですが、学生にとっては、カウンセリングの授業内等で学んできた「傾聴」についての、体験的学習の場となります。

人生の大先輩からの学び

「こころなごみカフェ」への参加を希望する心理学科の学生には、事前に研修とグループワークを行いました。グループワークでは、高齢者すなわち人生の大先輩に「聴いてみたいテーマ」を出し合って、それをカードに記入しておき、当日はそれを参加者にめくって頂きながら、話を進めていく方法を採りました。学生も興味津々で聞き入っており、自分たちとはまた異なる価値観や時代背景を知ることによって、ものの見方や考え方が広がり、大変勉強になったようでした。

1 回目は 15 名の住民の方と 7 名の学生、2 回目は住民の方 9 名と 4 名の学生、3 回目は住民の方 16 名と学生 6 名が参加しました。2 回目と 3 回目には、団地に住む小学生と幼稚園児のお子さんも参加してくれました。実はお子さんの参加は当初の想定にはなかったことなのですが、今後もお子さんの参加があれば、団地内のお子さんと高齢者を、学生が間に入ってつなぐことで、世代間交流促進という新たな目標も考えられるかと思います。今後も試行錯誤しながらになるかと思いますが、こうした「語り」「出会い」の場を提供すべく、取り組みを続けていきたいと考えております。

こころなごみカフェの様子

その他の京都市地域を対象とした教育活動（「学まち連携大学」促進事業）一覧

学部	学科	科目名	クラス	担当	受講者数	対象地域 または実施場所	教育活動の内容（概要）
国際英語学部	国際英語学科	地域課題研究	1回生 全員対象	佐久間浩司	94名	京都・山科地区	京都山科地域の観光産業について学生が調査し、発表。全部で10のグループに分かれ、京都山科で活躍する外国人従業員のいるレストラン、京都山科での外国人をターゲットにしたお店やカフェというテーマで実地調査、インタビュー調査を行った。国際英語学部はグローバルな視野での教育となるが、グローバルとローカルの接点を考えようという趣旨で、地元で活躍するグローバル人、地元で展開するグローバルビジネスというテーマにした。 また授業の内の一回は、本学と隣接する岩屋神社を訪問し、宮司の室田氏との意見交換を実施。大学から最も近い地域の歴史遺産と、その今日的な役割について検討した。
国際英語学部	国際英語学科	Community Translation Program	2回生 必修プログラム3つの中の1つ	アンガス・ノーマン	18名	山科地域	留学に参加しない学生の国内プログラムである。独自の3科目からできている：CTPの入門講座である「多文化理解プログラム講座Ⅱ」、さまざまな分野のCTの翻訳練習「多文化理解プログラム演習」とPBL授業である「グローバルビジネスⅡ」。最終的に学生が山科のコミュニティーの国際化に貢献できるように学生各自の翻訳計画を立て、フィールドワークを行う。その後、計画を発表し、出版予定の「山科英語ガイド」（「学まち連携大学」の補助金対処）の準備をする。計画内容は、観光、イベント、グルメ、生活情報、交通、スポーツ設備など外国人の観光客および留学生、滞在者のための情報である。
文学部	日本語文学科	地域課題研究	1回生a～c回生回生	野村幸一郎	50名	岩屋神社	事前学習の後、現地見学、翌週レポート提出
文学部	日本語文学科	同上		重松恵美	同上	蹴上	同上
文学部	日本語文学科	同上		林久美子	同上	毘沙門堂	同上
文学部	日本語文学科	同上		安達太郎	同上	六波羅蜜寺	同上
文学部	日本語文学科	言語文化総合演習	1，2回生	野村幸一郎	50名	蹴上	事前学習の後、現地見学、翌週レポート提出
文学部	日本語文学科	同上	同上	野村幸一郎	50名	京都鉄道博物館	同上
文学部	日本語文学科	キャリア開発演習	2，3回生	野村幸一郎	30名	鴨川デルタ	事前学習の後、現地見学、翌週レポート提出
文学部	日本語文学科	同上	同上	野村幸一郎		東山	同上
文学部	日本語文学科	同上	同上	野村幸一郎		宇治	同上
文学部	日本語文学科	同上	同上	野村幸一郎		伏見稲荷	同上
文学部	歴史学科	地域課題研究	1回生研究入門ゼミクラスa+d	増渕徹 小野浩 野田泰三	36名	祇園新橋重伝建地区・円山公園・八坂神社・法観寺・六波羅蜜寺など	京都の歴史についての理解を深めることを目的に学外授業を実施した。見学に先立ち学生は案内レジュメを作成し、現場で解説を行うとともに、見学後はパワーポイントを作成して成果報告会を開催した。
文学部	歴史学科	地域課題研究	1回生研究入門ゼミクラスb+e	後藤敦史 松浦京子 永井和	36名	琵琶湖疎水記念館・南禅寺・平安神宮など	同上
文学部	歴史学科	地域課題研究	1回生研究入門ゼミクラスc+f	尾下成敏 王衛明 南直人	35名	船岡山・大徳寺など	同上
文学部	歴史学科	研究入門ゼミⅠ・Ⅱ	研究入門ゼミa・d	増渕徹	16名・14名	琵琶湖疎水・南禅寺・無鄰庵など	『都名所図会』を材料に授業を行うとともに、多様な歴史遺産への眼を養うために名所や京都の近代遺産を見学した。
文学部	歴史学科	世界史基礎ゼミⅠ・Ⅱ	基礎ゼミa+b	南直人	16名+14名	立命館大学国際平和ミュージアム	平和ミュージアムを見学し、日本及び世界の現代史の最重要テーマである戦争と平和の問題に関して考察を深めた。(7月＋12月)
文学部	歴史学科	日本史講読Ⅰ、古文書学AⅠ・AⅡ	講読Ⅰb、古文書学AⅠ・AⅡ	野田泰三	13名、38名	学内	東寺百合文書など京都地域に関する中世文書をテキストに用い、中世京都の歴史について学んだ。
文学部	歴史学科	日本史演習Ⅱ	bクラス	野田泰三	13名、38名	学内	『山科家礼記』をテキストに用い、中世の山科地域の歴史について学習した。
文学部	歴史学科	日本史演習Ⅲ	cクラス	尾下成敏	13名	北野天満宮・御土居など	近世京都の歴史への理解を深めるため、北野天満宮・御土居・紙屋川ほか上京区の歴史遺産を見学した。
文学部	歴史学科	京都の歴史と文化遺産	集中	増渕徹	38名	キャンパスプラザ	京都市文化財保護課の技師とともに、京都市内の各種の文化遺産について講義し、見学した（他大学・社会人への開放講座）
文学部	歴史学科	京都講座	集中	増渕徹 小林裕子 登谷伸宏 有坂道子	28名	学内・三十三間堂・南禅寺周辺など	本学で開かれる昭和大学の京都講座を担当。京都の歴史と各種の遺産について講義するとともに、建築・庭園・仏像などの見学を行った。
文学部	歴史学科	研究入門ゼミⅠⅡ	abc	登谷伸宏	1回生	山科	山科本願寺遺跡の見学
文学部	歴史学科	歴史遺産学基礎ゼミⅡ	c	登谷伸宏	2回生	伏見区	醍醐寺の見学

学部	学科	科目名	クラス	担当	受講者数	対象地域 または実施場所	教育活動の内容（概要）
文学部	歴史学科	歴史遺産学実習ⅠⅡ	abc	登谷伸宏	2回生	山科区	岩屋神社の実測調査
文学部	歴史学科	遺産情報演習Ⅰ〈b〉		登谷伸宏	学部生	伏見区	PBL、醍醐寺境内の調査

発達教育学部	児童教育学科	学校・地域調査（国内）Ⅰ　＜幼児＞		森本美絵	幼児コース2回生	山科その他	半期を通して、同じ保育所や幼稚園等に、ボランティア等に出かけ、実際の現場の雰囲気や子どもの成長する姿をメモすることを課題とした。演習では、メモをもとに印象に残った子どもの様子について意見交流し、クラス全体への発表、それらを踏まえてレポートを作成させた。
発達教育学部	児童教育学科	学校・地域調査（国内）Ⅱ　＜幼児＞		森本美絵	幼児コース2回生	山科その他	半期を通して、同じ保育所や幼稚園等に、ボランティア等に出かけ、実際の現場の雰囲気や子どもの成長する姿をメモすることを課題とした。演習では、メモをもとに特に行事場面での印象に残った子どもの様子について意見交流し、1つの場面をエピソードとして完成させた。
発達教育学部	児童教育学科	学校・地域調査（国内）Ⅰ　＜児童＞		河内晴彦他	児童コース2回生	山科その他	小学校フィールドワークとして、4月から翌年2月まで、1年間にわたって週1回山科地域の小学校や自分の出身校を訪問し、授業を参観しつつ、個々の子どもの学習支援を行う。当該科目にて、各自の経験を交流した。
発達教育学部	児童教育学科	地域課題研究		青木美智子	学科1回生全員	山科、醍醐	オリエンテーションとして、山科地域でのボランティア活動例を紹介し、興味のあるボランティア活動に参加することを勧めた（1コマ）。その後、山科青少年活動センターのユースワーカーによる講演を実施した（1コマ）。さらに、山科地域で活躍している児童人形劇団を招聘、公演とグループワークを行うことから、地域の子どもの育ちについて体験的に考えた（1コマ）。最後にちびっ子ランドとして、山科地域の子どもたちを招待し、子どものための諸活動を大学で実践した。実践の振り返りについては、グループワーク（1コマ）とプレゼンテーションを行った（1コマ）。
発達教育学部	児童教育学科	研究入門ゼミⅠ		芦名猛夫 森枝美 青木美智子 森本美絵 西村徳寿 長橋聡	学科1回生全員	山科、醍醐	10月に大学で予定されているちびっ子ランドに向けて、クラスごとに子どもを楽しませる企画を考え、その実現に向けて計画を立案した。
発達教育学部	児童教育学科	研究入門ゼミⅡ		芦名猛夫 森枝美 青木美智子 池田修 西村徳寿 長橋聡	学科1回生全員	山科、醍醐	研究入門ゼミⅠに引き続き、クラスごとに子どもを楽しませる企画の準備を行い、10月に行われたちびっ子ランドでは、子どもたちと交流した。その経験を今後に生かすために、子どもたちの様子や遊びを介した親子のやり取りの様子についての気づきや、取り組みについての反省等について振り返りを行った。
発達教育学部	児童教育学科	基礎演習Ⅰ		芦名猛夫 森枝美 西村徳寿 佐野仁美 大久保恭子 青木美智子 南憲治	学科2回生全員	山科、醍醐	10月に大学で予定されているちびっ子ランドに向けて、クラスごとに子どもを楽しませる企画を考え、その実現に向けて計画を立案した。
発達教育学部	児童教育学科	基礎演習Ⅱ		芦名猛夫 森枝美 西村徳寿 佐野仁美 大久保恭子 長橋聡 森本美絵	学科2回生全員	山科、醍醐	基礎演習Ⅰに引き続き、クラスごとに子どもを楽しませる企画の準備を行い、10月に行われたちびっ子ランドでは、子どもたちと交流した。その経験を今後に生かすために、子どもたちの様子や遊びを介した親子のやり取りの様子についての気づきや、取り組みについての反省等について振り返りを行った。

現代ビジネス学部	経営学科	専門演習Ⅰ・Ⅱ		今井まりな	16名	山科区	山科地域に存在する地域資源の中で、京焼・清水焼ならびに清水焼団地に焦点を当て、清水焼ならびに清水焼団地の認知度の向上を目的としたチラシの作成・配布を行った。チラシの作成にあたっては、まず、チラシのターゲットを大学生、外国人観光客と決定した上で、現地での聞き取りや体験調査を行った。また、チラシについては、デザイナーの方から指導を仰ぎつつ、コンテンツの決定からデザインまでをすべて学生達の手で作成した。最終的に作成・印刷したチラシはターゲットとした人々に対して配布した。
現代ビジネス学部	経営学科	基礎演習Ⅳ		阪本崇	14名	京都市	グローカル人材開発センターの協力の下、「第2期京都文化芸術都市創生計画」を研究し、京都市文化市民局文化芸術都市推進室に対して、学生の視点から今後の取り組みについての提案を行った。提案内容については、第5回グローカル人材フォーラムにおいて発表した。
現代ビジネス学部	経営学科	サントリー工場見学	専門演習ⅡJ	松石泰彦	15名	長岡京市 サントリー京都ブルワリー	京都周辺にある企業のうちサントリーのビール工場を見学。製造過程を見るだけでなく、工場の規模や立地など企業の様子を体感し、水源保持活動などCSR活動の実際も学んだ。
現代ビジネス学部	経営学科	京都近代産業遺産見学	基礎演習ⅣJ	松石泰彦	15名	京都市東山区	琵琶湖疎水が京都市の近代化にもたらした経済的効果をテーマに、南禅寺周辺の疎水遺構や琵琶湖疎水記念館、岡崎疎水等を見学した。

学部	学科	科目名	クラス	担当	受講者数	対象地域 または実施場所	教育活動の内容（概要）
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	「地域課題研究」		小辻寿規	約140名	京都市	地域のNPOリーダーや京都市観光協会事務局長をお招きし、京都市の文化や観光について学修した。
看護学部	看護学科	ライフサイクル論実習		深山つかさ 堀妙子	1回生 96名	山科区役所～ 山科中央公園	山科区老人クラブ主催の「美化ウォーキング」に参加した。学生は、参加者とコミュニケーションをとりながら、山科区内をゴミを拾いながら歩き、高齢者に対する理解を深めた。
看護学部	看護学科	プライマリケア実習Ⅰ		堀妙子 深山つかさ	2回生 106名	本学中央体育館	山科区老人クラブ連合会との共催で「体力測定会」を本学で行った。学生は受付及び体力測定の準備を行った後、参加者とペアになり、体力測定を行い、高齢者の健康状態などについての理解を深めた。参加者は109名であった。
看護学部	看護学科	プライマリケア実習Ⅰ		堀妙子 松本賢哉 深山つかさ 岡田純子	2回生 106名	京都市醍醐中山団地	醍醐中山団地の住人を対象に、学生が訪問活動を行った。訪問先は25家庭で、それぞれ部屋の片づけや、掃除など対象者の希望に合わせた活動を行い、地域で生活する人々の環境と健康の関係に関する理解を深めた。
看護学部	看護学科	プライマリケア実習Ⅱ		深山つかさ 松本賢哉 堀妙子 岡田純子	3回生 90名	京都市醍醐中山団地	醍醐中山団地の住人を対象に、学生が訪問活動を行った。訪問先は25家庭で、それぞれ部屋の片づけや、掃除など対象者の希望に合わせた活動を行いながら、地域で生活する人々の健康の保持増進のための援助に対する理解を深めた。
看護学部	看護学科	プライマリケア実習Ⅱ		深山つかさ	3回生 11名	京都市醍醐中山団地	醍醐中山団地で行われた「たちばな健康相談」に参加した。学生は、身体計測、血圧、骨密度、血管年齢、脳年齢などの測定を行いながら、参加者とコミュニケーションを図った。地域の特性と健康の関係を理解し、健康の保持増進のための援助に対する理解を深めた
看護学部	看護学科	プライマリケア実習Ⅱ		深山つかさ	3回生 15名	山科区・清水焼団地 みちくさの家	百々学区社会福祉協議会と協力して開催している「健康フェア」に参加した。学生は、身体計測、血圧、骨密度、血管年齢、脳年齢などの測定を行いながら、参加者とのコミュニケーションを図った。地域の特性と健康関係を理解し、健康の保持増進のための援助に対する理解を深めた。
看護学部	看護学科	プライマリケア実習Ⅲ		松本賢哉 丹羽芳恵	4回生 13名	山科総合福祉会館	社会福祉協議会と協力して開催している「フリースペース事業」に参加した。学生は、身体計測、血圧、骨密度、血管年齢、脳年齢などの測定を行いながら、測定結果から健康相談を実施した。地域の特性と健康関係を理解し、健康の保持増進のための援助に対する理解を深めた。
看護学部	看護学科	プライマリケア実習Ⅲ		竹下夏美 松本賢哉 菊岡美樹	4回生 12名	笑顔とふれあいの家 みささぎ	社会福祉協議会と協力して開催している「フリースペース事業」に参加した。学生は、身体計測、血圧、骨密度、血管年齢、脳年齢などの測定を行いながら、測定結果から健康相談を実施した。地域の特性と健康関係を理解し、健康の保持増進のための援助に対する理解を深めた。
看護学部	看護学科	プライマリケア実習Ⅲ		深山つかさ 平井亮 十倉絵美	4回生 17名	百々学区福祉協議会	社会福祉協議会と協力して開催している「フリースペース事業」に参加した。学生は、身体計測、血圧、骨密度、血管年齢、脳年齢などの測定を行いながら、測定結果から健康相談を実施した。地域の特性と健康関係を理解し、健康の保持増進のための援助に対する理解を深めた。
看護学部	看護学科	プライマリケア実習Ⅲ		野島敬祐 松本賢哉 南朗子	4回生 15名	山科総合福祉会館	社会福祉協議会と協力して開催している「フリースペース事業」に参加した。学生は、身体計測、血圧、骨密度、血管年齢、脳年齢などの測定を行いながら、測定結果から健康相談を実施した。地域の特性と健康関係を理解し、健康の保持増進のための援助に対する理解を深めた。
看護学部	看護学科	プライマリケア実習Ⅲ		深山つかさ 田邉幹康 竹中友希	4回生 15名	百々学区福祉協議会	社会福祉協議会と協力して開催している「フリースペース事業」に参加した。学生は、身体計測、血圧、骨密度、血管年齢、脳年齢などの測定を行いながら、測定結果から健康相談を実施した。地域の特性と健康関係を理解し、健康の保持増進のための援助に対する理解を深めた。
看護学部	看護学科	プライマリケア実習Ⅲ		奥野信行 松本賢哉 丹羽芳恵	4回生 11名	笑顔とふれあいの家 みささぎ	社会福祉協議会と協力して開催している「フリースペース事業」に参加した。学生は、身体計測、血圧、骨密度、血管年齢、脳年齢などの測定を行いながら、測定結果から健康相談を実施した。地域の特性と健康関係を理解し、健康の保持増進のための援助に対する理解を深めた。
健康 科学部	心理学科	地域課題研究	j	日比野英子 濱田智崇 永野光朗 井上裕樹	87名	学内	心理的支援や地域の活性化など地域課題の解決に取り組む事例について、ゲストスピーカーを含め8名の担当者の講義を実施した。ゲストスピーカーとして、山科区長、草津市、山科区の実務担当者と宇治おおばく病院の担当者（精神保健福祉士）をお招きした。

Ⅳ
その他の地域連携型教育プログラム

その他の地域連携型教育プログラム

「大津市老人クラブ連合会との連携事業」での活動

高齢者の生活の場で学ぶ看護学実習

看護学部看護学科教員＋学生×大津市老人クラブ連合会

大津市老人クラブ連合会との連携の概要

大津市老人クラブ連合会（以下老人クラブ）との連携活動は、今年で４年目となりました。この連携活動は、老人クラブの会長をはじめとした会員の皆様のご理解を頂き、老人クラブ事務局の全面的なご協力のもとに行われております。2016年度からは本格的に学生教育の場としての連携が始まり、活動内容はさらに広がっております。

今年度は、あらたに３回生が「プライマリケア実習Ⅱ」の一部として老人クラブの活動に参加するようになりました。このように新たな連携活動を行う時には、看護学科の教員と老人クラブ事務局との間で話し合いを行い、学生にとってどのような活動場所を提供できるのかを一緒に考えながら、準備を進めています。

体力測定記録会への参加

今年度も、和邇市民体育館、瀬田公園体育館、石山市民体育館の３か所で行われた体力測定記録会に、看護学科の１回生（ライフサイクル論実習）と３回生（プライマリケア実習Ⅱ）が参加しました。

１回生の実習は高齢者の特徴を理解することが目的です。学生は参加者とペアになり、日々の生活の様子をお聞きしながら測定の介助を行いました。３回生の実習は高齢者の健康保持増進のための看護援助を理解することが目的となっており、学生は参加者の血圧や骨密度測定を行った後に結果を説明し、日常生活に対するアドバイスなどを行いました。

参加された方は、学生との会話もすすみ、とても活気のある体力測定記録会となりました。昨年度までと違い３回生が参加するようになったことで、測定結果を丁寧に説明することができるようになり、参加者の健康に対する理解も深まったのではないかと思われました。また異なった学年が参加することで、１回生と３回生がお互いに刺激し合い、学びも深めているようでした。

老人クラブはこの体力測定記録会の運営に大きな課題をもっているため、今後は学生も巻き込みながら、運営面での支援を考えていく予定です。

地区で行われている活動への参加

今年度は、３回生のプライマリケア実習Ⅱが追加となり、より人々の生活に近い場所で実習を行うことになりました。この実習も様々な形で行われましたが、中には学生が10名程度のグループに分かれ、老人クラブの単位クラブ活動に参加する実習も行われました。単位クラブの活動は、参加者の生活圏内で行われており、学生は開催されるリクレーションへの参加、健康に関する意見交換などを行いました。また昼食時間には、参加者が作られた自家製の漬物を頂くことなどもあり、学生はその方々の生活を肌で感じていました。このような実習から学生は地域で生活することの意味や、社会資源の必要性、そして看護職の役割など多くの学びをえることができていました。

学生が、つたないながらも参加者と関わることで、参加者の健康の保持増進に貢献できたのではないかと考えています。今後もこのような実習を続けていきたいと考えています。

体力測定前のラジオ体操の様子

下肢の筋力低下に対する健康教育の様子

その他の地域連携型教育プログラム

草津市における来街者調査の実施

「マーケティング調査演習」の取り組み

京都橘大学健康科学部心理学科学生×草津市役所まちなか再生課×
草津市まちづくり株式会社+ニワタス+近鉄百貨店草津店+エルティ 932 +くさつ平和堂

心理学研究法（調査法）を用いた問題解決の実践

健康科学部心理学科では、３回生配当科目として「マーケティング調査演習」を開講しています。心理学は実証的研究分野ですが、調査法などの方法論を使って消費者の行動を把握し、データを分析することで企業がすすめるマーケティングへの活用方法を体験的に修得するという実践的な授業です。心理学科での勉学を卒業後の職務遂行に結びつけるための視点とスキルを養うという点で重要な科目と考えています。

2017 年度の成果・実績

昨年度に引き続いて草津市において来街者調査を実施しました。JR 草津駅東口エリアにおける商業施設４店舗（ニワタス、近鉄百貨店草津店、エルティ 932、くさつ平和堂）の来店者を対象とした来街者調査を実施しました。具体的な授業のスケジュールと内容は以下の通りです。

９月～ 10 月　①マーケティング調査（来店者調査・来街者調査）の目的、方法、意義について過去のケースを踏まえて学習、②現地における情報収集（「草津市役所まちなか再生課」ご担当者様による講義、各店舗のご担当者様との打ち合わせ、調査場所の見学など）
11 月　①調査計画の立案と調査項目の作成、面接調査のトレーニング、②４店舗での調査実施
12 月～１月　①調査データの整理（コーディングと入力）、②統計分析ソフトウエアによるデータ分析、③レポートの作成

４店舗における調査により、各店舗の来店者計 237 名の方の面接調査を行いました。面接調査の内容は①対象者の来店形態や来店目的など、②草津駅東口付近での立ち寄り箇所と購買品目、③買い物の不都合や希望するサービスなどでした。また各店舗からのご要望に応じて担当の学生たちが考案した質問紙も付加しました。

成果を広く人々に伝える

成果報告のために 2018 年 2 月 26 日に草津市において草津市役所関係の方々、各店舗の方々、受講学生、担当教員が出席して報告会が開催されました。また全体の結果をまとめた調査報告書を作成し、草津市役所および各店舗に提出しました。さらに情報収集の要請があった場合にはそれに応えるための調査を次年度以降にも行っていく予定です。

「近鉄百貨店草津店」での面接調査風景

草津市で開催された報告会

その他の地域連携型教育プログラム

統合保育をめぐる地域連携活動

第３回「統合保育の現状と地域連携」

京都橘大学心理臨床センター×山科区保育園協議会×山科区保健センター子どもはぐくみ室
企画担当：健康科学部　日比野英子

本活動の目的

本活動は、さまざまな問題を呈している子どもの保育について模索している保育士と、子育て支援・発達相談に関わる京都橘大学心理臨床センター（以下センター）相談担当教員が交流し、子どもたちについての理解を共有し、その発達を支える地域連携の可能性を探究するものです。

これまでの活動

今、保育の現場では発達障害や偏った養育等を要因とする問題が多々みられ、保育士はそのような子どもを抱えながらの保育に悩む毎日が続いています。2015 年 11 月に実施した第 1 回の本活動では、本センターと京都市保育士会の統合保育研究委員会との共催で実施し、保育の困難な事例について検討して、保育現場への支援を行いましたが、その内容は『つながる Vol.8』に掲載されました。2016 年 11 月の第 2 回から本センターと山科区保育園協議会との共催となり、山科区保健福祉センターの保健師も含めた、子育て支援機能を持つ三者の連携を図ることとなりました。これらの活動は全国保育協議会平成 29 年度近畿ブロック保育研究集会にて報告され、地域の大学の支援によって、保育士が保健福祉センターの保健師と連携できる機会が得られたことの意義が高く評価されました。

2017 年度の活動

本年度は 11 月 27 日に標記の三組織から、保育士・園長 20 名、保健師 2 名、大学教員 4 名、大学院生 4 名が参加して、「乳児健診をめぐる情報・意見の交換」を行いました。経験年数の少ない保育士の中には、乳幼児健康診査の実施内容を把握していない参加者もおられることから、最初に企画者である日比野教授から『京都市の乳幼児健康診査』について説明を行いました。それを踏まえて、保育士から保健師へ健診についての質問が次々寄せられ、子育て支援の難しい場合についての悩みを共有し、互いに示唆を与えたり、助言を行ったりという交流を行いました。保育の難しい子どもがより専門的な発達支援を受けられるように、保護者を説得することの難しさがあるものの、乳幼児健診と保育園連盟の巡回相談を有効に活用して専門機関へと結びつける方策を検討し、保育現場でも乳児健診受診を勧める対策が必要との共通認識に至りました。

保育士参加者から

参加者からは「保育園と保健センターが直接話し合えるとても貴重な機会で、それぞれの考えや取り組みがよくわかって大変勉強になった。」という声があり、相互理解が進んだように見受けられました。保育士・保健師の双方から、大学が介在したことによって「水平に話し合う機会がもてたのがよかった。」という感想も述べられました。

保育現場でも乳児健診でも、何より子どもたちの育ちを支援したい、保護者にも共感的に関わりつつも子どもの利益に繋がるよう伝えるべきことをしっかり伝える地道な努力を続けようという決意をあらためて確認する機会となり、地域における大学のリエゾン機能が発揮された活動といえるでしょう。

その他の地域連携型教育プログラム

地下鉄の駅を明るく楽しい空間にデザインする

駅ナカアートプロジェクト 2017

現代ビジネス学部都市環境デザイン学科河野良平ゼミ

プロジェクトの目的と概要

駅ナカアートプロジェクトは京都市交通局が主宰する「産・官・学」が連携したプロジェクトで、大学生が制作したアート作品によって地下鉄駅構内を活性化させることが主な目的です。国際観光都市である京都において重要な都市装置である「京都市営地下鉄」の「駅」のイメージアップを図り、地下鉄を魅力的なものとして活性化することで、活力ある京都のまちづくりに寄与することを目指しています。

京都市内にある美術・デザイン系学部・学科を有する 10 大学が参加し、各大学の最寄り駅を展示スペースとして捉え、各大学の学生が様々なアイデアを提案・実施しています。

取り組みの経緯と狙い

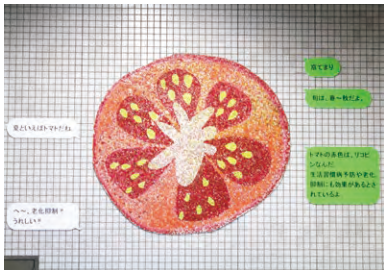
平成 23 年度に 3 大学で始まったプロジェクトで、京都橘大学は翌年の平成 24 年度から参加しています。河野ゼミとして参加するのは平成 28 年度で 4 回目になります。初年度は 4 回生の卒業制作の一環として参加しましたが、今年度は河野ゼミの 2 回生が制作を担当しました。

ややもすると人工的で無機質な感じのする地下鉄の駅構内を、いかにして明るく楽しい空間に変貌させることができるかということに主眼を置いて制作に取り組んでいます。普段勉強しているインテリアやデザインに関する知識を用い、与えられたテーマ、予算や設置条件などをクリアしつつ、ゼミが一丸となって作品制作に取り組むことが、結果的に学生自身の成長につながるものと考えます。

平成 28 年度（2017 年制作展示）の作品

今年度の全体テーマは「『国際文化都市京都』 ～駅から京の文化を発信する～」、作品名は「ナギベジ　nagi-veji」です。河野ゼミでは京都独自の文化であり山科周辺でも採れる京野菜に着目し、それらをもとに巨大な野菜の断面等として再現することにしました。ミニトマトよりもやや大きめの「京てまり」やユニークな形をした「鹿ケ谷（ししがたに）かぼちゃ」をモチーフとし、それらを細かくちぎったマスキングテープやアクリル絵の具を使ってカラフルな作品に仕上げました。LINE の会話をヒントにした解説文も付けています。2017 年 3 月 21 日～ 5 月 31 日まで展示されました。
※平成 29 年度（2018 年）は、2018 年 3 月 28 日～ 5 月 31 日各駅に展示。

マスキングテープを細かくちぎって
作品を制作しているところ



「京てまり」の断面を表現した作品

椥辻駅構内にて、協力しながら
作品を設置する様子

その他の地域連携型教育プログラム

高齢者の健康づくり

高齢者の健康促進活動

健康科学部理学療法学科教員＋学生×野洲市在住高齢者

活動内容

2014 年度より滋賀県野洲市と連携し、健康づくりに関する調査研究の一環として野洲市在住高齢者を対象に健康促進活動を行っています。今回で 4 年目となり、今年も高齢者の身体・認知・精神機能を調査しました。これらの結果は、野洲市在住高齢者の特徴を明らかにし、介護予防や転倒予防プログラムの基礎資料に役立てられています。

今年度は、272 名（昨年比 110%）の高齢者に参加いただきました。参加者の内訳は、70 代が最も多く（56%）、性別では女性が 79%と大多数を占め、男性は 21%と少なかったです。

調査項目は、握力や足の筋力、バランス能力、柔軟性、歩行能力などの運動機能に関する項目と、質問紙を用いた聞き取り方式で認知機能および精神心理機能を測定しました。また、調査結果は、当日中に返却し、対象者の年齢の全国平均と比較した結果の表を、学生および教員で個別に説明を行いました。学生は、参加者の方との良好なコミュニケーション方法について学ぶことができました。また、測定することの難しさ、測定結果を解釈し説明をする難しさも体験できました。

たちばな健康体操

2014 年度、2015 年度の野洲市在住の高齢者の特徴として、バランス能力と体幹筋力が全国平均を下回っていました。この結果をもとに、学生と教員で協働し、「たちばな健康体操」の DVD を作成しました。そして、「たちばな健康体操」の説明会を 2016 年度に 2 回、2017 年度に 1 回実施し、多くの方に参加いただきました。特に、2017 年度については地域で活躍している介護予防サポーターの方々に説明をし、たちばな健康体操を始めるコミュニティを増やすことができました。

「京都橘大学・熊野再発見プロジェクト」の活動について

現代ビジネス学部木下達文教授＋学生＋まちづくり研究会×
那智勝浦町（和歌山県）

熊野再発見プロジェクトとは

本プロジェクトは、2014 年 10 月 2 日に那智勝浦町（和歌山県）と京都橘大学とで観光・まちづくりに関連するひとつのミーティングが行われたことが契機となりました。それ以前にも文化政策学部創設時からの細々とした連携の歴史はありましたが、そのミーティングを契機として、2015 年度に入り本格的な地域連携を目指し、熊野地域を支援するためのプロジェクトを 2015 年 6 月 1 日に発足させたのが「京都橘大学・熊野再発見プロジェクト」です。熊野地域は世界遺産等を有しながらも、都心から遠距離に立地することもあり観光客の伸び悩みが深刻な上、2011 年の台風被害の影響でも大きな問題を抱えています。そこで、本学の地域連携事業の一環として熊野地域の観光や地域振興について協力をしていくこととし、具体的に現地に行くなどして、地域の魅力を発掘しながら、可能な範囲で地域再生の協力をしていくことを目的としています。

地域包括協定締結を契機とした植樹の交換へ

熊野再発見プロジェクトにおける、学生の地域学習の成果が町を動かし、2016 年 6 月 3 日に、和歌山県知事立ち合いのもと、那智勝浦町と大学が地域課題の解決に向けた活動をする「大学のふるさと」協定を締結するに至りました。その後、大学としては京都橘大学・那智勝浦町観光協会共催の「熊野学講座」の開催、同町内企業や観光協会などと連携した単位認定型インターンシップの実施、大学祭における那智勝浦町の広報活動、京都駅大階段駈け上がり大会の協力など、多くの事業連携を行っています。2017 年は大学開学 50 周年を記念し、那智勝浦町のウバメガシと大学のタチバナの交換植樹を実施し、さらなる連携強化に向けた一歩を記しました。

本年度の現地での活動

2017 年度における授業での活動としては、現地での地域診断およびその報告会が 8 月 2 日から 4 日にかけて行われました。本学学生が那智勝浦町を訪問し、同地域の観光政策についての課題や改善策を提案しました。今回は、アクティブラーニング科目である都市文化デザイン論の受講生、およびまちづくり研究会のメンバー 36 人の学生が、グループに分かれ観光地や商店街などを視察し、最終日に行われた報告会では、同町の花井啓州町観光協会長や町観光産業課職員ら約 60 人が参加し、それぞれのグループがテーマに沿った報告を行いました。地域フィールドワークの取り組みは今年で 3 回目となるため、単なる課題発掘に終わらずに、可能な限り課題解決のための具体的な提案を中心に報告することを心がけていました。この 3 年間でおおよその地域課題は出そろってきたため、今後継続していくための視点として、「地域側のプロジェクトをどう喚起していくのか」という点と、「提案型のアプローチから実践型のアプローチへの転換」を踏まえつつ授業プログラムを組み立てていく必要があると考えています。

その他の地域連携型教育プログラムの実績一覧

学部	学科	科目名	クラス	担当	受講者数	対象地域 または実施場所	教育活動の内容（概要）
国際英語学部	国際英語学科	Community Translation Program	2回生必修プログラム3つの中の1つ	佐久間浩司	21名	滋賀県守山市	留学に参加しない学生の国内プログラム。3科目のうちの1科目。現代ビジネス学部の木下達文教授の協力で、守山市の地域指定史跡「諏訪家屋敷」の外国人向け資料を作成した。 内容は、諏訪家屋敷にとどまらず、地域の予備知識の少ない外国人を想定して、滋賀近江の歴史、近江商人、琵琶湖周辺の史跡名所、歴史上の重要人物、近江を愛した芭蕉とその句など、地域全体への理解が深まる内容に仕上げた。
文学部	歴史学科	遺産情報演習Ⅰ〈a〉		登谷伸宏	学部生	滋賀県	大津別院・大通寺・八幡別院・西徳寺・蓮生寺・西福寺の見学
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	「都市文化デザイン論」（熊野再発見プロジェクト）		木下達文	約50名	和歌山県 那智勝浦町	和歌山県那智勝浦町の地域創生に関するプロジェクト。学生視点での地域診断および政策提案を実施。
看護学部	看護学科	ライフサイクル論実習		堀妙子 松本賢哉 深山つかさ	1回生 96名	和邇市民体育館 瀬田公園体育館 石山市民体育館 大津市立藤尾小学校	大津市老人クラブ連合会主催の「体力測定会」に参加した。学生は参加者とペアになり、コミュニケーションをとりながら体力測定を行い、高齢者に対する理解を深めた。
看護学部	看護学科	プライマリケア実習Ⅱ		深山つかさ 松本賢哉 堀妙子	3回生 42名	和邇市民体育館 瀬田公園体育館 石山市民体育館	大津市老人クラブ連合会主催の「体力測定会」に参加した。学生は参加者の受付や血圧測定、骨密度測定などを行い、その結果を説明するなどしてコミュニケーションを図り、健康の保持増進のための援助に対する理解を深めた。
看護学部	看護学科	プライマリケア実習Ⅱ		深山つかさ 松本賢哉 堀妙子	3回生 27名	和邇市民体育館	大津市老人クラブ連合会、志賀支部で行われた「交流会」に参加した。この交流会には地域の保育園児も参加した。学生は、骨密度・血管年齢などの測定をおこった後、高齢者や保育園児と共に、ペタンクやディスコンなどのゲームを行いながら、コミュニケーションを図り、健康の保持増進のための援助に対する理解を深めた。
看護学部	看護学科	プライマリケア実習Ⅱ		松本賢哉 堀妙子	3回生 36名	和邇市民体育館 小野自治会館 高城自治会館	大津市老人クラブ連合会、和邇地区の老人クラブ3ヵ所で行われたイベントに参加した。学生はそれぞれの場所で、血圧測定、骨密度測定、血管年齢などの測定を行い、参加者の健康状態の特徴を理解した。また、その後は、談話をしたり、学生企画の健康教室を行ったりしながら、健康の保持増進のための援助に対する理解を深めた。

産学連携（共同研究等）の実績

平成 29 年度草津市UDCBKにおける社会実験事前調査委託事業

妊婦サロンの設置可能性および運営手法の検討『産後早期の子育てにむけた家族教室』の活動を通して

京都橘大学　看護学部
神﨑光子、上澤悦子、村井みどり、兵藤絵美、遠藤俊子

活動の概要

草津市で懸案となっている妊婦サロンは、「同じ子育て期にある母親たちが妊娠期から気軽に交流する場を設けてほしい」との市民からの要望により検討されているものです。このような場を市が提供することによって、母親が孤立することを防ぎ、育児関連の情報を得、育児期まで続く母親のネットワークを作ることができれば、利用者相互のピアサポートによって産後のうつ病や虐待予防にも貢献できる有効な社会的資源に成り得ます。妊婦サロンを育児期にある母親が有機的に繋がる場として運営していくには、妊娠期から利用者が関心を持って集まる機会が必要であり、妊婦やその家族のニーズに沿った有益な情報や学習機会の提供が有効であると考えました。

神﨑准教授らは、先行研究の成果を基に家族機能を高める新たな教育的介入プログラム「産後早期の子育てに向けた家族教室（FFP）」を考案しています。FFP は、これから親となる妊婦とその家族を対象にした参加型の健康教育プログラムであり、育児体験やワークなどを通して産後早期の育児生活の実際や生活の変化、マネジメントの方法、妊娠期から行う準備について学習するとともに参加者相互の交流の場を提供するものです。

そこで、今回草津市からの事業委託を受け、UDCBK の場を妊婦サロンと想定し、子どもを持つ予定の家族の学習の場として FFP を実施し、妊婦サロンを設置・運営する上での課題や今後の在り方について検討することとなりました。

活動のねらい

FFP 参加による妊娠期の事前学習によって、初めて親となるカップルの産後の育児行動や生活のマネジメントがスムーズとなり、産後の抑うつを予防し、育児自己効力感を高め、家族間の関係性を良好に育んでいく効果が期待される。また参加者同士の交流から、娠期から育児期まで持続する地域住民相互の交流も狙いとしています。

実績

10月～3月末までの研究期間のうち、FFP の告知、および参加者の公募期間を経て、12月2日～3月17日の間、3回シリーズを 2 クール、全 6 回の FFP 実施をしました。参加者は、延べ 70 名でした。参加者アンケートでは、「育児生活のイメージができた」「育児の実際が具体的に分かった」「知らないことばかりで勉強になった」「現実的な問題を提示され、身近に感じられた」「夫婦で話すきっかけにもなった」「分かりやすく非常にためになった。産後は大変なんだと実感した」「考える機会になって良かった」「役割分担や育児休業についての内容も含まれており、とても参考になった」「今後の心構えや夫婦としての役割分担の大切さを感じた。本当に勉強になった」との感想があがっています。今後、妊婦サロンの課題について検討するとともに、参加者の追跡調査からプログラムの効果も検討する予定です。

初めてのおむつ交換

赤ちゃんの泣きとその対処方法

産学連携（共同研究等）の実績

全学をあげて「産学連携」を強化

－「地域連携推進機構」を「産学公地域連携推進機構」に改編－

京都橘大学産学公地域連携推進機構

本学は、2013年度より、学長を長とする「地域連携推進機構」を設置し、産業界や地方自治体、地域との連携活動に取り組んできました。この活動の中では、特に「地域連携」の分野で、地元山科・醍醐地域や、最近では滋賀県南部における取り組みが進められ、その実績が評価されています。

一方、本学が持つ研究教育資源の社会的な還元、すなわち産業界との共同研究など、「産学連携」に関しては、本学がもつ潜在的な能力を十分活用できていない状況でした。

本学は、1967年に文学部単科の4年制女子大学とスタートしましたが、2001年に政策系の学部を設置した後、2005年看護学部の設置を機に男女共学とし、その後健康科学部や国際英語学部などを増設して、現在6学部13学科の総合大学へと発展してきました。

このような改革により、本学の研究教育資源は、文社系から看護学、理学療法学、救急救命学など看護医療系まで広がり、それらの研究シーズを活用して、近年は企業との共同研究などの成果もあがりはじめていますが、まだまだ十分な状況であるとは言えません。

本学はこのような認識のもとに、現在成果をあげている地域での活動をより一層充実させつつ、京都の産業界との連携活動を、全学をあげて強化する方針を確認いたしました。

その第一歩として、現在ある「地域連携推進機構」を「産学公地域連携推進機構」（機構長は学長）へ改編し、その下に「リエゾンオフィス」を設置して、産業界との積極的な関係構築活動に取り組むことといたしました。また、そのような活動を外部から評価し、アドバイスをいただくための助言機関として、「京都橘大学産学公連携懇話会（仮称）」を設け、京都商工会議所や京都工業会、京都市、京都府など自治体、学識経験者より委員をお願いし、強力にサポートをしていただくこととといたしました。

新しい「産学公地域連携推進機構」は、今年3月1日既に開設され、リエゾンオフィスも活動を開始しております。また、「産学公連携懇話会（仮称）」は、2018年度より開催すべく、委員の委嘱を進めております。

本学における「産学連携」活動の詳細は、本学ホームページをご覧ください。

公的研究費・助成金等一覧（2017 年度実績）

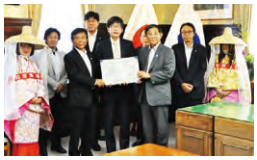
種　別	研究者	所　属	企業・団体名	助成金名	内容・テーマ	期　間
共同研究	村田　伸	健康科学部 理学療法学科 教授	アシックス商事 株式会社		アシックス商事が開発したシューズに関して、シューズの身体に与える影響についての検証、当該研究結果に基づくレポートについての監修、これらに付随する作業についての共同研究	平成 29 年 4 月 1 日～ 平成 30 年 3 月 31 日
共同研究	宮﨑　純弥	健康科学部 理学療法学科 教授	株式会社 ELT 健康増進研究所		健康寿命延伸に向けた運動補助具の開発	平成 30 年 1 月 30 日～ 平成 30 年 3 月 31 日
共同研究	兒玉　隆之	健康科学部 理学療法学科 准教授	日本ロレアル 株式会社		化粧品のストレス緩和効果の研究	平成 29 年 4 月 1 日～ 平成 30 年 3 月 31 日
共同研究	兒玉　隆之	健康科学部 理学療法学科 准教授	アイシン精機 株式会社		補足運動野の特性を利用した身体機能支援技術の研究	平成 29 年 4 月 1 日～ 平成 30 年 3 月 31 日
外部研究助成金	中野　英樹	健康科学部 理学療法学科 助教	公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団	2016 年度 在宅医療助成助成金	在宅脳卒中患者の転倒リスクを見える化：運動イメージ能力を用いた新しい評価法の開発	平成 29 年 4 月 1 日～ 平成 30 年 3 月 31 日
外部研究助成金	中野　英樹	健康科学部 理学療法学科 助教	公益財団法人 日本科学協会	平成 29 年度 笹川科学研究助成	高齢者の転倒に関わる脳・運動・認知・精神機能の統合的理解	平成 29 年 4 月 1 日～ 平成 30 年 2 月 10 日
外部研究助成金	中野　英樹	健康科学部 理学療法学科 助教	公益財団法人 大阪ガスグループ 福祉財団	平成 28 年度 「調査・研究助成」	高齢者の転倒リスクを評価するための新しい脳波バイオマーカーの開発	平成 29 年 4 月 1 日～ 平成 30 年 3 月 31 日
外部研究助成金	中野　英樹	健康科学部 理学療法学科 助教	公益財団法人 石本記念デサント スポーツ科学 振興財団	平成 29 年度 学術研究助成	高齢者の運動イメージ能力を「見える化」し、転倒リスクを予測する新しい評価方法の開発	平成 29 年 3 月～ 平成 29 年 10 月 31 日
外部研究助成金	岩瀬　弘明	健康科学部 理学療法学科 助教	公益財団法人 杉浦記念財団	第 6 回 杉浦地域医療振興助成	高齢者の安全運転支援を目的とした他施設共同による運転支援プログラムの構築	平成 29 年 4 月 1 日～ 平成 30 年 3 月 31 日
外部研究助成金	岩瀬　弘明	健康科学部 理学療法学科 助教	公益財団法人 ユニベール財団	2017（平成 29）年度 研究助成	高齢患者の抑うつ症状に関する調査と活動量計を用いたアプローチ法の構築	平成 29 年 11 月 1 日～ 平成 30 年 10 月 31 日
外部研究助成金	土井　脩史	現代ビジネス学部 都市環境デザイン学科 専任講師	公益財団法人 LIXIL 住生活財団	若手研究助成	温暖地域の居住文化に適合した環境配慮住宅の開発に関する研究	平成 29 年 4 月 1 日～ 平成 29 年 12 月 31 日
外部研究助成金	半海　宏一	現代ビジネス学部 都市環境デザイン学科 助教	公益財団法人 LIXIL 住生活財団	若手研究助成	住まいの境界を構成するエレメントの抽出と空間の考察	平成 29 年 12 月 1 日～ 平成 30 年 12 月 31 日

協定等

自治体等との連携協力に関する協定の締結

2012 年～2017 年

協定（連携）先	締結日	締結事項	備　考
学校法人 昭和大学	2012年 1月16日（月）	教育研究協力に関する包括協定を締結。 看護職および看護・医療のレベルアップへの取組、人事交流、看護に関する共同研究と地域連携などを推進。	 昭和大学との包括協定調印式
日本赤十字社 京都第二赤十字病院	2013年 1月21日（月）	教育研究協力に関する包括協定を締結。 ○本学看護学部の主要実習病院としての連携強化 ○「京都第二赤十字病院特別奨学金制度」の創設（1学生約360万円） ○奨学金制度の創設に伴う新規推薦入試制度の導入 ○看護に関する共同研究および地域連携の推進、教職員の交流	 第二赤十字病院との包括協定調印式
京都市山科区	2013年 9月24日（火）	本学と山科区は、地域連携・協力に関する協定を締結。 ○まちづくりの推進 ○地域産業の振興 ○教育、文化、生涯学習、スポーツの振興 ○医療・健康・福祉の向上 ○地域・社会に貢献できる人材の育成 ○防犯、防災、交通安全等の地域の安心・安全の推進	 山科区との協定締結式
社会福祉法人 京都博愛会 （京都博愛会病院）	2014年 3月5日（水）	理学療法士養成および理学療法・医療をめぐる教育研究に関する事業の発展を目指し包括協定を締結。 ○本学健康科学部理学療法学科における教育・研究に関する事項 ○京都博愛会病院理学療法士および理学療法・医療のレベルアップのための支援に関する事項 ○理学療法に関する共同研究および地域連携に関する事項 ○教職員の交流に関する事項 ○その他必要と認められる事項	
社会福祉法人 大宅福祉会 （おおやけこども園）	2014年 6月1日（日）	対人援助に携わる専門職者の養成ならびに看護・医療、保育・教育、臨床心理・発達心理をめぐる教育研究の振興のため包括協定を締結。 ○本学人間発達学部児童教育学科における教育・研究に関する事項 ○本学看護学部看護学科における教育・研究に関する事項 ○本学健康科学部心理学科および心理臨床センターにおける教育・研究に関する事項 ○大宅保育園の保育職および保育のレベルアップのための支援に関する事項 ○地域の子育て支援に関する事項 ○教育と研究の発展のため、その他必要と認められる事項	
滋賀県野洲市	2014年 6月17日（火）	地域の高齢者のニーズに応えられる介護予防事業をめざし、地域の発展と地域活性化に必要な人材育成に寄与することを目的に協定を締結。 ○高齢者の介護予防に関する事項（一次予防事業の実施など） ○その他高齢者の健康・福祉の向上に関する事項 ○地域・社会に貢献できる人材の育成 ○その他両者が必要と認める事項	
京都市 醍醐中山団地町内連合会	2014年 10月30日（木）	京都市、醍醐中山団地町内連合会と地域活性化に寄与する取り組みを目的とした連携協定を締結。 ○地域連携センター分室の開設 ○留学生が暮らす国際シェアルームの運営 ○住民との交流による地域貢献活動 ○地域コミュニティの再生と活性化 ○健康および福祉活動	 醍醐中山団地との協定締結式

協定（連携）先	締結日	締結事項	備　考
滋賀県草津市	2014年 12月25日（木）	本学と滋賀県草津市は、子育て支援の充実を軸とした包括協定を締結。 ○幼児教育・児童教育に関する事業 ○生涯学習に関する事業 ○文化の振興に関する事業 ○産業の振興に関する事業 ○地域の活性化に関する事業 ○人材育成に関する事業	 草津市との協定締結式
大津市老人クラブ連合会	2015年 6月10日（水）	地域の高齢者のニーズに応えられる介護予防事業の実現および看護・医療をめぐる教育・研究の振興をめざし、地域の発展と地域活性化に必要な看護職者育成に寄与することを目的として協力協定を締結。 ○高齢者の介護予防に関する事項（一次予防事業の実施など） ○高齢者の健康・福祉の向上に関する事項 ○地域・社会に貢献できる看護職者の育成に関する事項（看護学実習の受け入れなど） ○その他両者が必要と認める事項	
公益財団法人 京都市音楽芸術文化振興財団 （京都市東部文化会館）	2015年 11月5日（木）	本学と京都市東部文化会館（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）は、連携に関する協定を、同振興財団長尾理事長、同大学細川学長出席のもと締結。 ○文化芸術活性化パートナーシップ事業 ○文化・芸術の振興に寄与する人材の育成 ○学生の参加・学習	 京都市音楽芸術文化振興財団との協定締結式
和歌山県 和歌山県那智勝浦町	2016年 6月3日（金）	本学と和歌山県那智勝浦町は、和歌山県が進める「大学のふるさと」の趣旨に賛同し、三者協定を締結。 ○地域資源再評価および観光広報、教育研究提携 ○人的資源の交流を通じた人材育成 ○地域貢献活動の推進による地域文化の向上および振興	 那智勝浦町と 「大学のふるさと」協定を締結
京都市 京都市児童館学童連盟	2017年 7月28日（金）	本学と京都市児童館学童連盟および京都市は、児童館における学習支援事業に係る協定を締結。 京都市内の児童館において、学生ボランティアが子どもたちの勉強サポートや相談対応などの学習支援事業を展開する。	 児童館における 学習支援事業に係る協定を締結
京都市 全国認定こども園協会京都府支部	2017年 8月4日（金）	本学と全国認定こども園協会および京都市は、幼稚園教諭免許状更新の連携・協力に関する協定を締結。 これにより2017年度からの3年間、京都府内の認定こども園、京都市内の市立・私立幼稚園および市営・民間保育園の職員を対象とした幼稚園教諭免許状の更新講習を本学で実施する。	 京都の幼児教育・ 保育施設と幼稚園教諭免許状更新の 連携・協力協定を締結
京都府山科警察署	2017年 9月11日（月）	本学と京都府山科警察署は、国際分野を中心とした協力に関する協定を締結。 本学から山科警察署への英語教育プログラムの提供や、山科警察署から本学留学生への柔道・剣道等日本文化体験機会の提供などを行う。	 京都府山科警察署との 協力に関する協定を締結
福井県小浜市	2018年 3月	本学と福井県小浜市は、包括協定を締結。以下の事項について連携し協力する。 ○地域振興を担う人材育成に関すること ○地域社会の活性化およびまちづくりに関すること ○教育および学習機会の提供に関すること ○産業振興に関すること ○情報収集および発信に関すること ○その他、目的を達成するために必要な事項に関すること	
株式会社ビバ	2018年 3月	本学と株式会社ビバは、教育連携および地域活性化事業の展開に関する協定を締結。株式会社ビバが指定管理者として運営を委託されたスポーツ施設等において、学生の教育や共同研究等産学連携活動を行う。	

Ⅷ
教員の活動実績等

教員の活動実績等

2017 年度 学部・学科別活動実績

1 地域を対象とした研究活動

学部	学科	研究課題名	担当	対象地域 または実施場所	研究の内容や成果
文学部	歴史遺産学科	内海家文書の整理	有坂道子	醍醐	醍醐和泉町の内海家に伝来する古文書の整理を行い（2002年度より継続）、目録作成作業を行う。最終巻（第3冊）となる目録の刊行は2017年度を予定。
発達教育学部	児童教育学科	表現遊びから音楽づくりの分野への幼小接続についての共同研究	佐野仁美	宝塚市	2018年2月15日に宝塚市立西山保育園4歳児クラス、5歳児クラスを対象に、絵本のオノマトペを用いた身体表現とリズムの創作についての実践の打ち合わせを行う予定。その後2月23日に授業実践を行い、園内研究会で実践のまとめや助言を行う予定である。科研費基盤Cにもとづく研究の一環でもある。
現代ビジネス学部	経営学科	研究ブランディング事業プロジェクト「地域を対象とする研究における情報の循環を効率化するための情報システムの研究」	阪本崇 平尾毅 杉浦昌 片岡裕介	山科区	情報システムを用いて、地域における効率のよい情報循環を実現する方法を研究することが本研究の目的である。本年度は、その事例のひとつとして山科区が配信する区民向けアプリ「やましなプラス＋」の認知度や、操作性、それによって配信される情報に対するニーズについてのアンケート調査を、山科区の協力の下で、区民まつり等の機会に紙ベースで行うとともにアプリのアンケート機能を通じての調査を行った。アプリの配信から調査まで一定の期間をおく必要があり、調査実施が年度末に集中してしまったため、その分析等については次年度に行う予定である。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	地域高齢者の「居場所」運営の継続・終了要因の抽出	小辻寿規	全国	全国のコミュニティカフェにアンケートを実施し、地域での連携実態や運営実態の調査を行った。
看護学部	看護学科	地域住民を対象としたリラクセーション法体験教室の成果	小板橋喜久代 梶谷佳子 中橋苗代 植村由美子 岡田純子 内田亜里沙	山科区	本研究は、地域住民を対象としたリラクセーションの体験教室を開催し、その成果を検討したものである。病院内での患者対象のリラクセーション体験指導については、これまでも行ってきているが、健康生成の観点から、地域住民を対象とした研究はなされていなかった。そこで、地域に在住する中・更年期の対象者に、リラクセーション法を体験をしてもらったところ、血圧・脈拍などの生理的な反応に、体験前後の差は見られなかった。血圧・脈拍が減少する傾向が見られたことから、自律神経活動の安定化が見込まれた。主観的なリラックス尺度の得点は、実施後に有意に上昇した。この体験を普段の生活に取り入れていきたいとの希望が出されたが、十分に定着したか否かの評価まではできなかった。
看護学部	看護学科	草津市社会実験推進事前事業（UDCBK）「妊婦サロンにおける『産後早期の子育てに向けた家族教室（Fostering Family Program:FFP)』の効果検証」	神﨑光子 上澤悦子 村井みどり 兵藤絵美 遠藤俊子 学生ボランティア（院生）1名	滋賀県、草津市	1.目的：草津市民から要望のあった妊婦サロンについて、市の事業としての在り方を検討する（社会実験推進事前事業） 2.方法：アーバンデザインセンターびわこくさつ（ＵＤＣＢＫ）を妊婦サロンと想定し、その1つの事業として、「産後早期の子育てに向けた家族教室（Fostering Family Program :FFP)」を実施している。 FFPは、これから親となる妊婦とその家族を対象にした参加型の健康教育プログラムであり、育児体験やワークなど通して産後早期の育児生活の実際や生活の変化、マネジメントの方法、妊娠期から行う準備について学習するとともに参加者相互の交流の場を提供するものである。FFPの参加による妊娠期の事前学習によって、産後の育児行動や生活マネジメントがスムーズとなり、親の抑うつを予防し、育児自己効力感を高め、家族間の関係性を良好に育んでいく効果が期待される。また妊娠期から育児期まで持続する地域住民相互のピアサポート関係の形成も期待される。 3.実績：10月～3月末までの研究期間のうち、公募期間を経て、12月2日～2月24日の間、3回シリーズを2クール、全6回の実施を予定している。2/3現在までに延べ56名が参加しており、最終的には延べ70名余りの参加が見込まれている。 4.成果：FFP終了後、各回の参加者アンケートおよび運営方法の実態についての振り返りから草津市事業としての妊婦サロンの今後の在り方について検討し、3月中に提言をまとめる予定である。また参加者への追跡調査により、産後の抑うつ予防、育児自己効力感、家族機能への効果も検討する予定である。
健康科学部	心理学科	男性を対象とした臨床心理学的子育て支援プログラムの開発	濱田智崇 青木剛 井上裕樹	京都府・滋賀県	共同研究助成事業の1つとして、心理臨床センター主催「パパとママのこころ育て広場」において子育て支援プログラムの実践を積み重ねながら、前年度草津市で実施した子育て意識調査の結果を分析した。その内容は、日本心理臨床学会第36回大会で発表した。

学部	学科	研究課題名	担当	対象地域 または実施場所	研究の内容や成果
健康科学部	心理学科	地域における発達障害の方および家族への支援に関するニーズの把握と支援方法の検討	大久保千惠・濱田智崇・日比野英子	京都府・滋賀県・奈良県	総合研究センター公募型研究プロジェクトの一つとして、保護者の方を対象とした支援についてのニーズ調査および学齢期のお子さん対象のサポートグループ「みんなのこころ育て広場」を実施した。
健康科学部	心理学科	子どもの居場所づくりからはじめるソーシャルスキル開発「ソーシャルキャピタルとしての居場所の機能の検討と子どものレジリエンスをはぐくむプログラム開発」	大久保千惠・口野隆史（児童教育学科）小辻寿規（都市環境デザイン学科）・森枝美（児童教育学科）	山科区・伏見区	研究ブランディング事業申請プロジェクトの一環として、「子どもの居場所」を運営している本学卒業生の講話を聴き、子どもの居場所にかかわった経験がある本学学生との意見交流を行った。
健康科学部	心理学科	フォーカシング・セミナーの実施と参加者アンケートからの実施内容の検討	青木剛	京都府・滋賀県・大阪府等	心理臨床センター主催「臨床心理セミナー」の「フォーカシング」の回において実施されたプログラムを参加者アンケートを元に検討・考察し、心理臨床センター紀要「心理相談研究」第４号に投稿した。
健康科学部	理学療法学科	地域在住高齢者の参加サークルの違いによる身体機能の差異	白岩加代子 他５名	野洲市	地域在住高齢者を対象に身体機能の評価を行い、参加しているサークルにより身体機能に差異がみられるのか検討した。「いきいき百歳体操」と「マシントレーニング」のグループに分けて比較した。その結果、体幹筋力の測定項目では、「いきいき百歳体操」グループの方が「マシントレーニング」グループよりも低い値を示した。このことから、「いきいき百歳体操」グループでは、体幹機能の強化につながるトレーニングを追加した方が良いと思われた。 ヘルスプロモーション理学療法研究　5(4)：167-171.2016

2 社会貢献活動

学部	学科	活動名	担当	対象地域	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
文学部	歴史学科	ラポール学園 「日本史講座」	尾下成敏	京都市	なし	「吉田神社－吉田兼見の周辺」というテーマで講演した。
文学部	歴史学科	女性歴史文化研究所シンポジウム	南直人	京都市	あり	「食の歴史とジェンダー　－日本とアジア－」と題したシンポジウムにおいて講演を行った。
文学部	歴史遺産学科	文化財研修会 （消防訓練）	一瀬和夫 小林裕子 有坂道子 登谷伸宏	山科区	２回生	毘沙門堂において、山科消防署・地域消防団の方々とともに文化財防災訓練を実施した。
文学部	歴史遺産学科	文化財特別公開におけるボランティア	小林裕子	松花堂	学科学生有志	松花堂における文化財の特別公開に際して、拝観者の誘導・案内を行った。
文学部	歴史遺産学科	奈良県の近世寺社建築調査	登谷伸宏	奈良県	４回生有志	奈良県内の近世寺社建築調査を実施した。
文学部	歴史遺産学科	京田辺市史編纂に関わる歴史的建造物調査	登谷伸宏	京田辺市	教員	京田辺市内の歴史的建造物調査を実施する予定である（２～３月）
文学部	歴史遺産学科	歴史遺産調査実習	一瀬和夫	山科区	学部、大学院生	地域の調査研究者と山科・小山石切丁場の踏査と測量
文学部	歴史遺産学科	大宅廃寺跡展示 （京都市）	一瀬和夫	山科区	３・４回生	歴史遺産実習で京都市から金箔瓦・大宅廃寺出土瓦を借用、清史館１階で展示
文学部	歴史遺産学科	伏見城の展示 （京都市）	一瀬和夫	伏見区	３・４回生	歴史遺産演習で京都市から金箔瓦他の橘中・高校用地出土品をを借用、図書館で展示
発達教育学部	児童教育学科	げんKids★応援隊	顧問 倉持祐二	山科区、草津市、京都市	延べ約90名	学内外で23回の企画を実施。山科区内では、勧修小学校キャンプ・夏祭り・餅つき大会・ふれあいの集い、地域の自治会の地蔵盆でのリクレーション、山科団地祭り、小野バザー、山科区赤ちゃんフェアに参加した。学内では、実験教室、水遊び企画、スポーツ大会、クリスマス企画などを実施した。草津市の取り組みとして、宿場祭りや大路区民まつりに参加。京都市の取り組みとして、京の七夕企画、下京子ども祭りに参加。企画に参加した子どもたちや保護者に対するアンケート調査をもとに、今後の活動を豊かにすることを目指している。
発達教育学部	児童教育学科	たちXパル	顧問 口野隆史	山科区小学校、琵琶湖畔	学生37名	山科区内の４つの小学校（勧修小学校、大宅小学校、小野小学校、大塚小学校）の子どもたちを対象に、琵琶湖畔のＯＰＡＬ（アウトドアスポーツクラブ）をベースにして、カヌー体験、水鉄砲、スイカ割り、琵琶湖の藻を使ったしおり作り、レクリエーションの計画を立てる。子どもたちに自然の魅力や外遊びの楽しさに気づいてもらうことを目的とし、８月９日に実施予定であったが、台風接近のため中止。また、10月より土日に子どもを対象としたカヌー教室の補助を１日に２名ずつ行う。

学部	学科	活動名	担当	対象地域	学生参加の有無その人数	活動の内容や成果
現代ビジネス学部	経営学科	山科区スマートフォンアプリ運営協議会	阪本崇	京都市山科区	なし	山科区が開発し、区民向けに配信しているスマートフォンアプリ「やましなプラス＋」の運営方針について協議する「山科区スマートフォンアプリ運営協議会」に副会長として参加し、第１回運営協議会に出席し、アプリの運用方針について意見交換を行うなどした。
現代ビジネス学部	経営学科	京都産学公連携機構「文理融合・文系産学連携促進事業」PBL	松石泰彦	京都市伏見区	４名	2015年度にPBLにて取り組んだ「知財活用アイデア全国大会」で学生が考案した「太陽電池充電機能付きスマートフォンケース」の商品アイデアについて、コンテスト後から伏見区・エンゼル工業株式会社にオファーをいただき、試作をめざす取り組みを継続、2016年８月～2017年７月まで本事業助成金を獲得した。エンゼル社とともに試作品作成をすすめ、７月までに４体を製作し、それをもってメーカー等に採用のPRを働きかけた（残念ながら現在商品化オファーは来ていない）。
現代ビジネス学部	経営学科	MOMOテラスと連携した地域活性化イベントPBL	松石泰彦 加藤　諒	京都市伏見区 MOMOテラス	８名	伏見区桃山のショッピングモールMOMOテラス（住商アーバン開発）と連携し、地域の活性化につながる季節のイベントを学生が企画・実行する活動。今回は９月から企画と準備、交渉などを進め２月３日に同モールで幼児向け節分イベントを開催した。学生は経営・都市環境デザイン両学科を軸に、児童教育学科からも参加した。なお、この件は2015年度にPBLにて取り組んだ「知財活用アイデア全国大会」での学生発表を契機にオファーをいただいたものである。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	「ルシオール・フェスティバル」の運営	木下達文	滋賀県守山市		守山市による音楽によるまちづくり支援を行う。まち全体による相乗効果があった。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	「ラ・フォル・ジュルネびわ湖」の運営	木下達文	滋賀県	約40名	びわ湖ホールが行うイベントの子ども部門の運営支援を行う。約３万人来場する。今年度、学生は見学のみ。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	「やましな駅前陶灯路・バル」の運営	木下達文 小辻寿規	京都市山科区	約80名	駅前諸団体および大学が共同して行うイベント。今回は商店街イベント（スタンプラリー等）も実施した。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	やましなＧＯＧＯカフェの運営協力	小辻寿規	山科区	５名	山科区が実施する区民交流イベントに関した企画・運営の協力。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	山科検定の運営協力	木下達文	山科区		山科区が実施するご当地検定の全体計画についての助言等を行う。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	草津市文化振興基本計画策定協力	木下達文	滋賀県草津市		草津市が本年度作成した文化基本条例に基づく計画の策定協力を実施。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	大庄屋諏訪屋敷運営計画策定協力	木下達文	滋賀県守山市		守山市に寄贈された古建築の文化施設公開に向けた雲形計画の策定協力。座長。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	こだわり市場プロジェクト	谷口知司	京都市	約35名	こだわり市場ホームページならびに冊子の運営及び制作。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	修学旅行プロジェクト	谷口知司	京都市	約35名	おいでやす京都ホームページに関する取材および運営。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	KYOTO駅ナカアートプロジェクト	河野良平	京都市山科区	約25名	京都市交通局主催による地下鉄・椥辻駅改札周辺の壁面デザインプロジェクト
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	文化芸術による地域貢献プロジェクト	小辻寿規	公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団・京都市東部文化会館	５名	京都市音楽芸術文化振興財団のアウトリーチ活動に参加し、提案を行った。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	山科ウォーキングマップ	小辻寿規	株式会社ビバ・山科地域体育館	７名	昨年度に引き続き山科・醍醐地域のウォーキングマップを山科地域体育館や東野公園の指定管理者である株式会社ビバと行った。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	醍醐中山団地陶灯路	小辻寿規	醍醐中山団地	約30名	学生学会であるまちづくり研究会が醍醐中山団地と連携して、学まちコラボの助成金を獲得し、中山団地で初となる清水焼の絵付け体験や陶灯路を実施した。
看護学部	看護学科	たちばな楽学食堂	松本賢哉 堀妙子 河原宣子 野島敬祐 深山つかさ	山科区 老人クラブ 連合会		4月・6月・8月・1月の第4金曜日、大学でとれたタケノコを使った料理、各自自慢の麺つゆを持ち寄って素麺大会、など老人クラブと料理を作りながら交流した。参加者は２５名前後

学部	学科	活動名	担当	対象地域	学生参加の有無その人数	活動の内容や成果
看護学部	看護学科	女性の依存症者の回復支援セミナー	小西奈美	主に京都市内、近隣地域、全国を対象とするものもあった。	なし	主に京都市内における女性の依存症者の回復支援を目的に結成した、当事者や依存症回復支援施設職員、行政や法務省関連職員、カウンセラー、教員など多職種による「京都女性の回復を支援する会」メンバーとして2017年7月、10月、2018年1月セミナーを実施。各セミナーとも90名程度の参加があった。
看護学部	看護学科	女性の依存症者の回復支援学習会	小西奈美	主に京都市内	なし	主に京都市内における女性の依存症者の回復支援を目的に結成した、当事者や依存症回復支援施設職員、行政や法務省関連職員、カウンセラー、教員など多職種による「京都女性の回復を支援する会」メンバーとして、1月、3月、4月、8月、9月、11月、12月に対人関係問題や個人の感情処理についての学習会を開催。10名前後/回の参加があった。
看護学部	看護学科	がんサバイバーへのオンコロジータッチセラピー	小西奈美	主に京都市内	なし	毎月2回開催されている、がんサバイバーやその家族、支援者のコミュニティにおいて、4月、6月、9月、11月、2018年1月にタッチセラピー（30分程度/人）実施。
看護学部	看護学科	いちごカフェ	深山つかさ、鈴木久義、田邉幹康、望月紀子、竹中友希		ボランティア2名	老人保健施設いわやの里において、毎月1回の「いちごカフェ」を開催している。いわやの里の利用者、介護をしているご家族、地域の方など参加いただいた。
看護学部	看護学科	第12回 たちばな健康相談	健康支援WG（深山つかさ、河原宣子、奥野信行、中橋苗代、餅田敬司、内田亜里沙、伊藤弘子、菊岡美樹、平井亮、十倉絵美）		ボランティア54名	大学祭の時に、教員と学生ボランティアで、身体計測、健康相談、骨密度測定等を実施している。今年度で第13回の実施になった。参加者は100名である。
看護学部	看護学科	出張たちばな健康相談in醍醐中山団地（6/18）	健康支援WG（河原宣子、中橋苗代、内田亜里沙、平井亮、十倉絵美）		ボランティア11名	学園祭時のたちばな健康相談の出張版。醍醐中山団地集会所で実施した。参加者は18名であった。
看護学部	看護学科	出張たちばな健康相談in醍醐中山団地（1/21）	健康支援WG（深山つかさ、奥野信行、餅田敬司、伊藤弘子、菊岡美樹、竹中友希）		ボランティア15名	学園祭時のたちばな健康相談の出張版。醍醐中山団地集会所で第2回目を実施した。参加者21であった。
看護学部	看護学科	次世代育成看護 研究会	遠藤俊子 上澤悦子 神﨑光子 工藤里香 常田裕子 宗由里子 兵藤絵美 村井みどり	京都府 大阪府 滋賀県	院生5名	周産期医療に関わる看護職を対象に、看護職者自身のエンパワーメントを支え、社会の要請に応えられる看護の質向上を目指し公開研修会を開催した。「赤ちゃんポストをめぐって」「特別養子縁組に関わる制度と実際」「関わりの難しい妊婦の対象理解」「臨床で役立つケア・整体的アプローチ」の計4回実施し、のべ135名の参加があった。
看護学部	看護学科	First Gift	常田裕子 宗由里子 兵藤絵美 上澤悦子 遠藤俊子	大津市民病院		毎月第4火曜日に妊婦を対象に行っているファーストギフト（授乳に関する準備教室）を大津市民病院助産師と共に運営した。参加者は約3～5名/回
看護学部	看護学科	ふれあいまつり西野	深山つかさ 松本賢哉 堀妙子	山科区	1回生21名 3回生5名	西野学区で開催されたふれあい祭りにて、身体計測、血圧、骨密度、血管年齢、脳年齢などの測定を行いながら、地域の特性と健康関係を理解し、健康の保持増進のための援助に対する理解を深めた。
看護学部	看護学科	山科区民まつり	深山つかさ 堀妙子	山科区	3回生10名	山科区包括支援センターと協働で、骨密度、血管年齢、脳年齢などの測定を行いながら、地域の特性と健康関係を理解し、健康の保持増進のための援助に対する理解を深めた。
看護学部	看護学科	アイラブフェア	深山つかさ 堀妙子	山科区	3回生5名	視覚障害者の理解を一般市民に普及させるための活動を視覚障害団体と実施した。
看護学部	看護学科	安朱学区 健やか健康相談	深山つかさ 松本賢哉 堀妙子	山科区	3回生5名	身体計測、血圧、骨密度、血管年齢、脳年齢などの測定を行いながら、地域の特性と健康関係を理解し、健康の保持増進のための援助に対する理解を深めた。
看護学部	看護学科	蓬莱苑 デイサービスセンター	深山つかさ 松本賢哉 堀妙子	大津市	3回生25名	利用者に対して血圧、骨密度、血管年齢などを測定し、その結果を説明するなどしてコミュニケーションを図り、健康の保持増進のための援助に対する理解を深めた。

学部	学科	活動名	担当	対象地域	学生参加の有無その人数	活動の内容や成果
健康科学部	理学療法学科	守山市介護予防事業「健康のび体操」の効果検証	宮﨑純弥	守山市	12名	守山市自治体3地区の40名を対象に9週間「健康のび体操」を実施して頂き、その前後での身体機能を測定した。その結果、全ての測定項目で改善が認められ、参加者からは、今後も続けていきたいとの声が多数聞かれた。
健康科学部	理学療法学科	野洲市在住高齢者の健康増進に向けた調査研究	村田伸他6名	野洲市	22名	272名の野洲市在住の高齢者を対象に、握力や脚の筋力・足の把持力・バランス能力・柔軟性・歩行速度など運動機能面に関する項目と、認知機能検査や質問紙から聞き取り方式で行う心理検査を実施した。その結果を踏まえ、高齢者自身が健康度を体力年齢でチェックできる「高齢者向け元気はつらつサポートブック」、ならびに高齢者の介護予防対策に有効と思われる健康体操を収録した「たちばな健康体操DVD」を作成し、野洲市および参加高齢者に配布した。
健康科学部	理学療法学科	腰痛改善・予防教室	安彦鉄平他1名	山科区	12名	腰痛を有する地域在住者20名を対象に、腰痛を改善させる身体、心理的アプローチを合計6回実施した。その結果、腰痛は有意に軽減した。この要因は、身体機能ではなく、活動量および心理機能の改善が認められたためと考えられる。
健康科学部	理学療法学科	たちばな健康体操運動研修会	安彦鉄平	野洲市	なし	野洲市在住の転倒予防サポーターを対象に、たちばな健康体操DVDの作成意義および体操の説明会を実施した。参加者からは、体操に取り組んでみようという好意的な意見が多かった。
健康科学部	理学療法学科	たちばな健康体操運動研修会	安彦鉄平	山科区	なし	山科区役所にて、地域包括支援センターの看護師を対象に、たちばな健康体操DVDの作成意義および体操の説明会を実施した。多くの方に、健康のためにも身体だけでなく認知機能も維持する必要があることをご理解いただいた。
健康科学部	理学療法学科	醍醐地区在住高齢者の健康に向けた調査研究「たちばな健康体操」の効果検証	安彦鉄平他5名	伏見区	20名	約40名の醍醐地区在住の高齢者を対象に、握力やバランス能力・柔軟性・歩行速度など運動機能面に関する項目と、認知機能検査や質問紙から聞き取り方式で行う心理検査を実施した。その後、「たちばな健康体操」についての研修会を2回行った。今後は、公園体操にたちばな健康体操を利用していただき、一年後に介入後の調査を行う予定である。
健康科学部	理学療法学科	虚弱高齢者の健康支援に向けた調査研究	白岩加代子他4名	大津市	11名	通所リハビリテーション施設を利用している高齢者を対象に、握力、脚の筋力、バランス能力、歩行能力などの運動機能に関する項目と、認知機能や精神・心理機能について質問調査を行った。施設利用者の今後の方針を立てる際の参考資料として、施設のスタッフに調査結果を返却した。
健康科学部	理学療法学科	わかあゆ呼吸ケア研究会	堀江淳他5名	大学近隣医療機関	239名（累積）	全4回シリーズ＋特別講演で実施した。第1回呼吸の解剖・生理、検査データの解釈、第2回慢性期呼吸器疾患患者のリハビリテーション、第3回急性期呼吸器疾患患者のリハビリテーション、第4回在宅酸素療法・非侵襲的人工呼吸療法（座学と実技）のテーマで開催した。また、2016年度は、作業療法士による呼吸リハビリテーションをテーマに特別公演を開催した。今年度で5回目を迎えるが、毎年、多くの医療従事者の参加がある、近隣では「恒例行事」としての地位を確保しつつある。
健康科学部	心理学科	パパとママのこころ育て広場	濱田智崇 井上裕樹	京都市 大津市	学生7名	心理臨床センター主催事業。地域の未就学児とその保護者を対象に、土曜日の午前中、心理臨床センタープレイルームなどでグループ活動を行った。子育ての悩みを共有したり、臨床心理士からの助言を行ったりし、今年度は8回実施。学生はボランティアとして参加し、終了後のカンファレンスで、子どもの発達やかかわり方などについて学習した。
健康科学部	心理学科	山科保健センター3歳児健診	濱田智崇	山科区	なし	山科保健センターが実施する3歳3ヶ月児健診において、心理相談を担当した。発達障害の疑いや、保護者に子育て不安のあるケースに個別対応し、必要に応じて本学心理臨床センターの情報を提供した。
健康科学部	心理学科	山科保健センターすくすくクラブ	濱田智崇	山科区	なし	山科保健センター主催、4ヶ月～8ヶ月の赤ちゃんと保護者を対象とする「すくすくクラブ」において「子育てを楽しむために」と題して講演を行った。8月と3月に実施した。
健康科学部	心理学科	大宅イクメンパパの会	濱田智崇	おおやけこども園	なし	大宅保育園主催の子育て支援講演会で講師を務めた。今年度は大宅イクメンパパの会として、4回実施した。

学部	学科	活動名	担当	対象地域	学生参加の有無その人数	活動の内容や成果
健康科学部	心理学科	臨床心理セミナー・事例検討会	菅佐和子 松下幸治 大久保千恵 ジェイムス朋子 青木剛	京都府 滋賀県 大阪府等	大学院生３名	心理臨床センター主催事業。臨床心理士や周辺領域の専門職を対象とするリカレント講座。「精神分析的心理療法入門」「フォーカシング」「『家族』をテーマとする、年代を問わないケース・カンファレンス」の計３回実施し、のべ40名の参加があった。
健康科学部	心理学科	対人援助職セミナー	松下幸治	京都府 滋賀県 大阪府等	大学院生４名	心理臨床センター主催事業。対人援助職を対象とし、職場の実践で役立つ臨床心理学を体験的に学ぶ機会を提供した。６回実施し、のべ52名の参加があった。
健康科学部	心理学科	不登校児の 支援ボランティア	井上裕樹	兵庫県立但馬やまびこの郷（不登校児童生徒の支援施設）	学生８名	不登校児童生徒対象とした４泊５日の集団宿泊体験活動に参加し、その活動を通して、不登校児童生徒の学校生活への適応や社会的自立に向けた支援を体験的に学んできた。また、この活動に参加する学生に対して、事前研修と事後報告会を実施し、その中で、複数の教員と対話することを通して、彼らの心理臨床学の体験的な学びをさらに深めるための作業を行った。
健康科学部	心理学科	保育コンサルテーション	日比野英子 濱田智崇 宮井研治	山科区・草津市	なし	統合保育に関するコンサルテーションをのべ約２００時間実施した。
健康科学部	心理学科	京都市保育士会大研修会講師	日比野英子	京都市・大津市	なし	保育士270名を対象に「乳児の心の発達とその支援」という題目の講義を行った。
健康科学部	心理学科	野洲市子どもの 健康づくり教室講師	日比野英子	野洲市	なし	野洲市の子育て支援講座「子どもの健康づくり教室『子どもの発達』」。主に乳幼児の心の発達についてわかりやすく説明して、母親の理解を深め、育児への不安を緩和し、母子の豊かな交流を促す講座である。
健康科学部	心理学科	京都市保育園連盟 巡回相談	日比野英子	京都市	なし	京都市内の私立保育園９ヵ園において、保育コンサルテーションを行った。
健康科学部	心理学科	山科区保育園協議会・京都橘大学心理臨床センター共催統合保育をめぐる地域連携活動第３回『統合保育の現状と地域連携』	日比野英子 濱田智崇	山科区	健康科学研究科臨床心理学コース院生４名	統合保育を実践する保育士と、子どもの発達・保育・療育に関わる研究者ならびに地域の保健師が交流し、統合保育の現状への理解を深め、子育て支援をめぐる情報・経験を共有し、子どもの発達を支える地域連携の可能性を追究した。
健康科学部	心理学科	守山市大型商業施設における来街者調査の実施	永野光朗・藤原勇	草津市	学生20名	心理学科２回生科目「社会調査法（社会心理調査）」の履修者の中から参加者を募り、参加を希望した学生を中心に大型商業施設における来街者調査（守山市）を行った。また、事前の学習として、来街者（面接）調査のロールプレイを行った。
健康科学部	心理学科	草津市中心部における来街者調査の実施	永野光朗	草津市	学生18名	心理学科３回生科目「マーケティング調査演習」の授業の一環として、ＪＲ草津駅東口近辺への来街者の意識や実態を明らかにするための来街者調査を近辺の商業施設４店舗において実施した。計237名分のデータを収集した。２月下旬に草津市において報告会を開催する予定である。分析結果は草津市中心市街地活性化のために利用される予定である。
健康科学部	救急救命学科	山科区総合防災訓練の運営補助	北小屋裕	山科区	４名	山科区総合防災訓練において、山科区社会福祉協議会の職員とともに参加者に災害ボランティアセンター啓発事業を行った。
健康科学部	救急救命学科	大宅こども園	北小屋裕	山科区	４名	幼稚園児に対して、紙芝居を使った、救急啓発活動事業を行った。
健康科学部	救急救命学科	こどもフェスタ救護	夏目美樹	京都市	７名	NPO法人山科醍醐こどものひろば主催のこどもフェスタにて、救護活動を実施。救護所を設置し、移動救護班と待機救護班に分かれ救護を行った。
健康科学部	救急救命学科	空手大会救護	夏目美樹	大阪府	３名	第４回全日本フルコンタクト空手道選手権大会の救護活動に参加した。
健康科学部	救急救命学科	安朱小学校BLS	千田いずみ	山科区	４名	京都市立安朱小学校の５年生32人を対象としたBLS講習を行った。マネキンはリトルアンとミニアンを使用した。 講習は授業形式で講義と実技の時間を分け、全員がBLSを体験できるようにした。
健康科学部	救急救命学科	京都橘中学校 ドリームスクールBLS	深澤雄二	京都橘中学校	４名	京都橘中学・高校で開催された地域還元事業、ドリームスクールにてBLS講習を行った。イベントに参加した学生以外の方にも参加していただき、多くの方にBLSを体験していただいた。
健康科学部	救急救命学科	同志社中学校BLS	千田いずみ	京都市	５名	同志社中学校では２回に分けて合計293人にBLS講習を行った。学校での授業の一環としてBLSを体験することで実技時間を確保しつつ質の高い講義を行った。
健康科学部	救急救命学科	勧修小学校BLS	千田いずみ	山科区	５名	勧修小学校で開催されたキャンプイベントにてBLS普及活動を行った。対象は小学校低学年なので主にBLSに慣れ親しんでもらうことを目標とし活動した。

学部	学科	活動名	担当	対象地域	学生参加の有無その人数	活動の内容や成果
健康科学部	救急救命学科	滋賀 JPTEC プロバイダーコース	夏目美樹	滋賀県立医科大学	6名	JPTEC プロバイダーコース（交通事故などで大けがを負った人を、事故現場から病院まで適切に搬送するためのマニュアルを習得するコース）の補助スタッフとして参加した。
健康科学部	救急救命学科	京都 JPTEC プロバイダーコース	夏目美樹	京都府	10名	JPTEC プロバイダーコース（交通事故などで大けがを負った人を、事故現場から病院まで適切に搬送するためのマニュアルを習得するコース）の補助スタッフとして参加した。
健康科学部	救急救命学科	勧修小学校キャンプ救護活動	夏目美樹	山科区	10名	勧修おやじの会主催の行事、勧修小学校キャンプに参加。救護活動に加えプールでの救命講習なども実施した。
健康科学部	救急救命学科	野外ファーストエイド講習	千田いずみ		5名	野外活動におけるファーストエイドの講習会の一部でBLS講習を実施した。対象は小学生から高校生までの学生15名である。講義内容としてはリスクマネジメント、CPR体験、止血法などのファーストエイドを行った。
健康科学部	救急救命学科	おおやけこども園BLS（園児対象）	千田いずみ	山科区	10名	大宅こども園の園児を対象としたBLS講習を行う。補助教材として『たたかう！救急アニメ 救え！ボジョレー！』を使用するなど、対象者がBLSに親しみを持てるようにする。
健康科学部	救急救命学科	おおやけこども園BLS（教員対象）	千田いずみ	山科区	6名	大宅こども園の教員を対象としてBLS講習を行った。仕事柄小児と接することが多いため、講義では小児・乳児のBLSをとりいれた。
健康科学部	救急救命学科	京都橘大学七夕陶灯路	夏目美樹	京都橘大学	10名	京都橘大学で開催される七夕陶灯路で救護活動を実施した。
健康科学部	救急救命学科	滋賀 JPTEC プロバイダーコース	夏目美樹	滋賀県	8名	JPTEC プロバイダーコース（交通事故などで大けがを負った人を、事故現場から病院まで適切に搬送するためのマニュアルを習得するコース）の補助スタッフとして参加した。
健康科学部	救急救命学科	勧修小学校夏まつり救護	夏目美樹	山科区	12名	勧修小学校で行われる勧修夏まつりに参加し救護活動を行った。
健康科学部	救急救命学科	大宅サマーフェスティバル救護＆BLS	夏目美樹	山科区	11名	大宅小学校で開催される夏祭りにて救護所およびBLSの体験コーナーを設置した。BLS講習は対象のほとんどが小学校低学年であるため、実技の時間を多めに確保することでよりBLSに慣れ親しんでもらうことを目的として実施した。
健康科学部	救急救命学科	京都博物館救護	夏目美樹	京都市	15名	京都国立博物館でのイベントに参加し、救護活動を行った。
健康科学部	救急救命学科	教員免許講習	夏目美樹 千田いずみ	京都橘大学	5名	前半はBLS講習を、後半はファーストエイド講習を行った。
健康科学部	救急救命学科	椥辻保育園BLS（園児対象）	千田いずみ	山科区	7名	椥辻保育園の園児（5歳児）を対象としたBLS講習を行った。補助教材に『たたかう！救急アニメ 救え！ボジョレー！』を使用する。幼少期からBLSに触れておくことで、成人後に同じ講習を受けた際により深く習熟できることを期待している。
健康科学部	救急救命学科	大宅地蔵盆	夏目美樹	山科区	4名	大宅フラワーガーデンで開催される地蔵盆に参加し救護活動を行った。
健康科学部	救急救命学科	京都学園高校BLS	夏目美樹	京都学園高等学校	10名	京都学園高校で消防主催のBLS講習会が開催され、補助スタッフとしてBLS指導に参加した。
健康科学部	救急救命学科	京都橘中学校BLS	夏目美樹	京都橘中学高等学校	3名	京都橘中学および高校教員を対象としてBLS講習を行った。講習は講義形式で、リトルアンとミニアンを使用して全員が体験できるようにした。
健康科学部	救急救命学科	NHK奈良放送局幼児向けイベント	千田いずみ	奈良県	4人	NHK奈良で行われたイベント『開局８０年！ NHK奈良わくわくステーション』に参加して、BLS普及活動に参加した。
健康科学部	救急救命学科	DMAT研修会	福岡範恭	大阪医療センター・八尾空港	16名	DMAT隊員となるための、DMAT隊員養成研修に補助スタッフとして参加した。
健康科学部	救急救命学科	岩屋こども園BLS（園児・保護者対象）	千田いずみ	山科区	3名	『たたかう！救急アニメ 救え！ボジョレー！』を使用した。予定していた人数よりも２倍に増えたため、マネキンは２人で１体として講習を行った。
健康科学部	救急救命学科	山科駅前陶灯路救護	夏目美樹	山科区	13名	山科駅前で開催されたやましな駅前陶灯路にて救護活動を行った。
健康科学部	救急救命学科	京都 JPTEC プロバイダーコース	西本泰久	京都府	14名	JPTEC プロバイダーコース（交通事故などで大けがを負った人を、事故現場から病院まで適切に搬送するためのマニュアルを習得するコース）の補助スタッフとして参加した。
健康科学部	救急救命学科	DMAT研修会	福岡範恭	大阪医療センター・八尾空港	13名	DMAT隊員となるための、DMAT隊員養成研修に補助スタッフとして参加した。
健康科学部	救急救命学科	京都橘大学学園祭BLS	夏目美樹	京都橘大学	20名	京都橘大学で開催される大学祭にBLS体験ブースを設置した。マネキンとAEDトレーナーを準備してBLSの普及活動を行う。台風のため１日のみの実施となった。

学部	学科	活動名	担当	対象地域	学生参加の有無その人数	活動の内容や成果
健康科学部	救急救命学科	救急フェスタ いのちのリレー大会	千田いずみ	JR神戸駅南 デュオ神戸	10名	JR西日本あんしん社会財団の救急イベント「救急フェスタ in 神戸」に参加してBLS普及活動を行った。
健康科学部	救急救命学科	エンゼルネットBLS	千田いずみ	京都市	2名	保育施設の職員や園児、保護者に対してBLSとファーストエイドの講習を行った。 BLSは成人・小児・乳児のBLSについて実施した。マネキンは1人に1体のミニアンと乳児マネキンを使用した。
健康科学部	救急救命学科	こどもまつり救護	夏目美樹	山科区	5名	山科駅前で開催されたこどもまつりにて救護活動を行った。
健康科学部	救急救命学科	勧修小学校 もちつき救護	夏目美樹	山科区	13名	勧修小学校で行われたもちつき大会に参加し救護活動を行った。
健康科学部	救急救命学科	大宅学区防災訓練BLS	夏目美樹	山科区	10名	大宅小学校で行われた防災訓練に参加した。訓練の一部としてBLS講習を行った。
健康科学部	救急救命学科	山科防災訓練救護	夏目美樹	山科区	10名	大宅小学校での防災訓練の終了後にBLS講習を行った。100名ほど参加者がいたため、5ブースに分かれ、それぞれAEDとマネキンを設置した。子供から高齢者まで幅広く普及できた。
健康科学部	救急救命学科	DMAT研修会	福岡範恭	大阪医療センター・八尾空港	8名	DMAT隊員となるための、DMAT隊員養成研修に補助スタッフとして参加した。
健康科学部	救急救命学科	滋賀JPTEC プロバイダーコース	夏目美樹	滋賀県	7名	JPTECプロバイダーコース（交通事故などで大けがを負った人を、事故現場から病院まで適切に搬送するためのマニュアルを習得するコース）の補助スタッフとして参加した。
健康科学部	救急救命学科	大阪マラソン救護	西本泰久	大阪府	20名	第7回大阪マラソンの救護に参加した。マラソンコースの沿道救護を行う。活動中1名の心肺停止傷病者が発生し、学生がBLSを実施、蘇生に成功した。
健康科学部	救急救命学科	DMAT研修会	福岡範恭	大阪医療センター・八尾空港	6名	DMAT隊員となるための、DMAT隊員養成研修に補助スタッフとして参加した。
健康科学部	救急救命学科	DMAT研修会	福岡範恭	八尾空港	6名	DMAT隊員となるための、DMAT隊員養成研修に補助スタッフとして参加した。
健康科学部	救急救命学科	京都JPTEC プロバイダーコース	夏目美樹	京都府	11名	JPTECプロバイダーコース（交通事故などで大けがを負った人を、事故現場から病院まで適切に搬送するためのマニュアルを習得するコース）の補助スタッフとして参加した。
健康科学部	救急救命学科	京都マラソンBLS（ランナー対象）	夏目美樹	京都府	4名	京都マラソンに参加するランナーに、BLS講習を行う。講習は橘大学救急救命学科教授が講義を行い、学生がその補助をする。
健康科学部	救急救命学科	友の会BLS	千田いずみ	山科区	4名	大宅診療所の患者会「友の会」とコラボし、BLS講習会を行う。1人1台のマネキンを使用して実際に体を動かしてもらい、より効率よく習熟することを期待している。
健康科学部	救急救命学科	滋賀JPTEC プロバイダーコース	夏目美樹	滋賀県	8名	JPTECプロバイダーコース（交通事故などで大けがを負った人を、事故現場から病院まで適切に搬送するためのマニュアルを習得するコース）の補助スタッフとして参加する。
健康科学部	救急救命学科	香里ヌヴェール学院 BLS	夏目美樹	大阪府	6名	香里ヌヴェール学院にてBLS講習を実施する。
健康科学部	救急救命学科	山岳ファーストエイド講習	千田いずみ		5名	野外活動におけるファーストエイドの講習会の一部でBLS講習を実施する。講義内容としてはリスクマネジメント、CPR体験、止血法などのファーストエイドを予定している。
健康科学部	救急救命学科	千里メディカルラリースタッフ	北小屋裕	大阪府	55名	災害ブースの傷病者や救急隊役で活動した。
健康科学部	救急救命学科	済生会滋賀県病院 災害訓練	関根和広	滋賀県	20名	院内災害訓練において傷病者役などで参加した。

広報誌「つながる」2017 年度　CONTENTS

地域連携センターでは、地域貢献活動や公開講座や地域に関連する研究などを紹介し、発信する媒体として、年 2 回広報誌「つながる」を発行しています。

「つながる」第 11 号　2017 年 11 月 7 日発行

1. Interface　実践の知　第 10 回
誰もが「孤独死」で亡くなる可能性
―死の社会化を―
結城　康博　　淑徳大学総合福祉学部教授

2. 第 8 回橋セッション
大学サテライトセンターのあり方と可能性
坂倉　杏介　　東京都市大学都市生活学部准教授

3. 京都モダニズム建築を訪ねて　第 21 回
河原町スカイマンション
河野　良平　　本学現代ビジネス学部准教授

4. Interview　ともに　第 11 回
ひとりでも、年をとっても、安心してくらせる山科に
地域の見守りが支える " かぎ預かり事業 "
住友　正歳　　山階学区自治会連合会会長
山階学区社会福祉協議会会長

「つながる」第12 号　2018 年 3 月 20 日発行

1. Interface　実践の知　第 12 回
京都市のインバウントの取組等について
福原　和弥　　京都市産業観光局観光 MICE 推進室
MICE 戦略推進担当部長

2. 第 9 回橋セッション
草津市を中心とした滋賀県下での
本学の地域連携活動について
草津×げん Kids ★応援隊～繋がり繋げる～
村田　梨緒　　発達教育学部児童教育学科 4 回生
古田　智輝　　発達教育学部児童教育学科 4 回生
上松　美紗　　発達教育学部児童教育学科 4 回生
文化による地域振興の事例
～守山市ルシオールプロジェクトおよび
草津文化振興基本計画を中心に～
木下　達文　　本学現代ビジネス学部教授
世代間交流を活用することで
参加者が倍増した大津市老人クラブ体力測定会
松本　賢哉　　本学看護学部准教授
授業を介した地域連携活動
～「マーケティング調査演習」の事例紹介～
永野　光朗　　本学健康科学部教授
環びわ湖大学・地域コンソーシアムについて
堀部　栄次　　環びわ湖大学・地域コンソーシアム事務局長

3. 京都モダニズム建築を訪ねて　第 22 回
京都教育大学　学生食堂および高架水槽
河野　良平　　本学現代ビジネス学部准教授

4. Interview　ともに　第 12 回
他者を受けいれ、他者とともに生きる社会へ
外国人も日本人も、ともに楽しく暮らすために
ハッカライネン　ニーナ　　外国人女性の会パルヨン代表

2017京都橘大学
「地域連携型教育プログラム」実績集
（「学まち連携大学」促進事業実績集）
（2017年4月～ 2018年3月）

発行日　2018年3月31日
発　行　京都橘大学　産学公地域連携推進機構　地域連携センター
〒607-8175　京都市山科区大宅山田町34
TEL：075-574-4342　FAX：075-574-4149
URL：http://www.tachibana-u.ac.jp
E-mail：occ@tachibana-u.ac.jp

育ちあう、響きあう
京都橘大学